

IV 調査結果

IV 調査結果

1 社会における制度・慣行について

1. 静岡県における男女共同参画の機会の確保

問1 本県において、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思いますか。(1つに○)

男女共同参画の機会が確保されていると『思う』人は 33.2%。

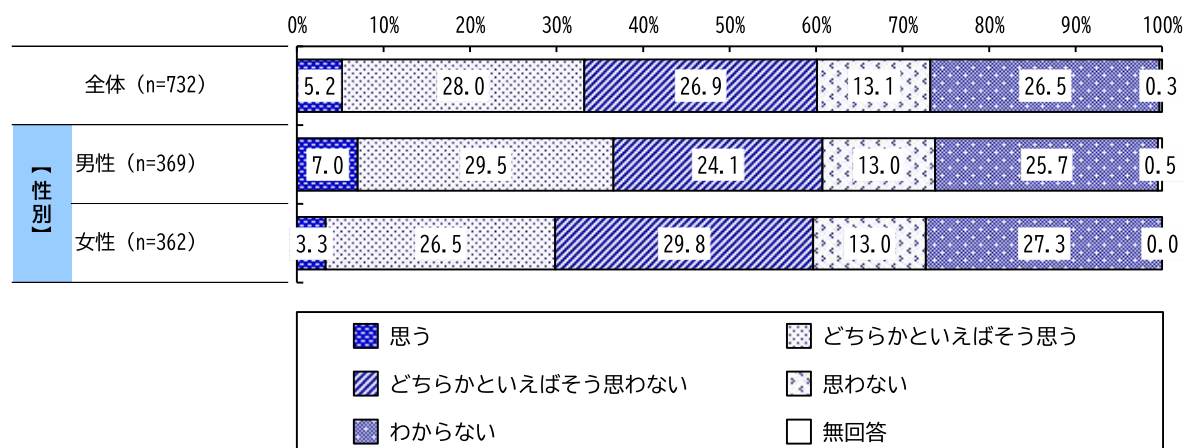
本県において、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思うかとたずねたところ、『思わない』(40.0%、「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)が『思う』(33.2%、「思う」+「どちらかといえばそう思う」)を上回っています。

性別でみると、『思わない』が、男性は37.1%、女性は42.8%、『思う』が男性は36.5%、女性は29.8%となっており、男女間で差がみられます。

性・年代別でみると、男性は50歳～59歳が『思わない』の割合が他の年代より高くなっている一方で、18歳～29歳は『思う』の割合が他の年代より高くなっています。女性は50歳～59歳、60歳～69歳で『思わない』の割合が他の年代より高くなっています。

経年比較でみると、『思う』『思わない』ともに大きな変化はありません。

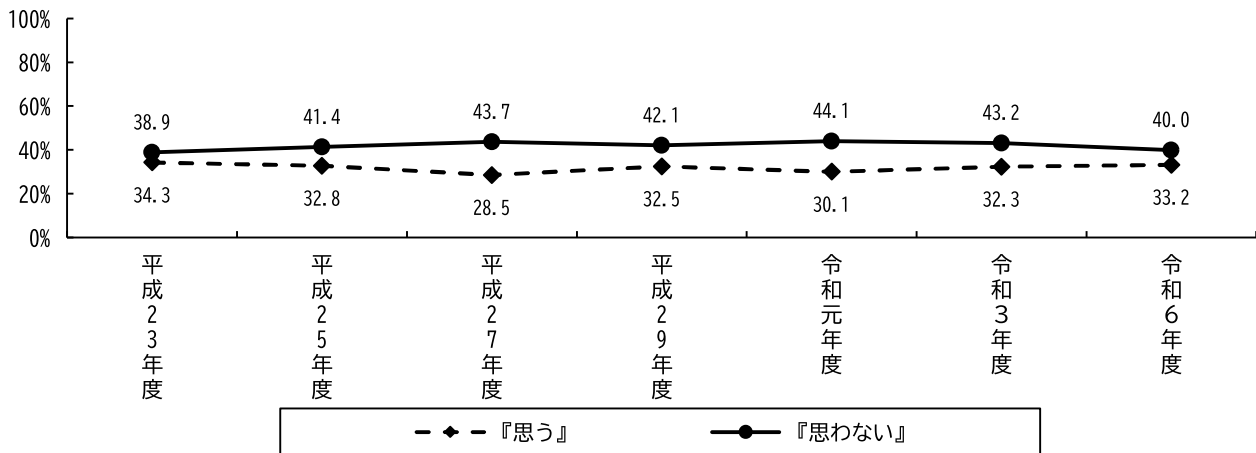
【全体・性別】



【性・年代別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『思う』（「思う」＋「どちらかといえばそう思う」）、『思わない』（「思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）

	調査数	思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	思わない	わからない	無回答
平成23年度	577	8.1%	26.2%	26.9%	12.0%	25.3%	1.6%
平成25年度	793	6.9%	25.9%	27.2%	14.2%	23.7%	2.0%
平成27年度	899	7.7%	20.8%	29.5%	14.2%	26.9%	0.9%
平成29年度	782	5.4%	27.1%	28.5%	13.6%	25.3%	0.1%
令和元年度	744	4.6%	25.5%	28.1%	16.0%	25.3%	0.5%
令和3年度	826	6.3%	26.0%	30.4%	12.8%	24.0%	0.5%
令和6年度	732	5.2%	28.0%	26.9%	13.1%	26.5%	0.3%

2. 社会全体における男女平等感

問2 あなたは、社会全体で見た場合、男女は平等になっていると思いますか。（1つに○）

社会全体において『男性優遇』と感じている人は63.6%。

社会全体で見た場合、男女は平等になっていると思うかとたずねたところ、『男性優遇』（「男性が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）が63.6%、「平等」が13.0%、『女性優遇』（「どちらかといえば女性が優遇されている」＋「女性が非常に優遇されている」）が9.7%となっています。

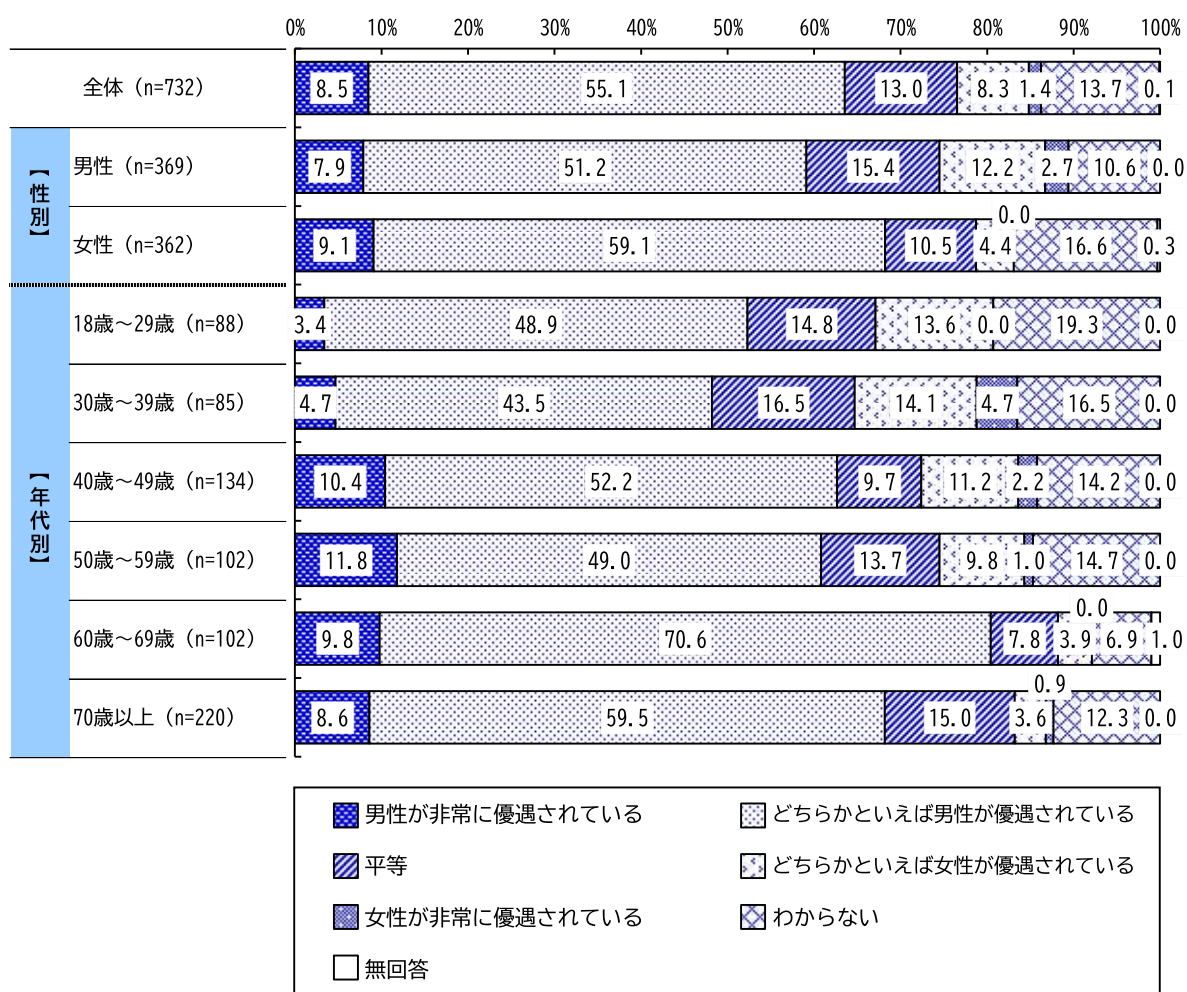
性別でみると、『男性優遇』が、男性は59.1%、女性は68.2%となっており、男女間で差がみられます。

年代別でみると、60歳～69歳が『男性優遇』と感じている割合が他の年代より高くなっています。

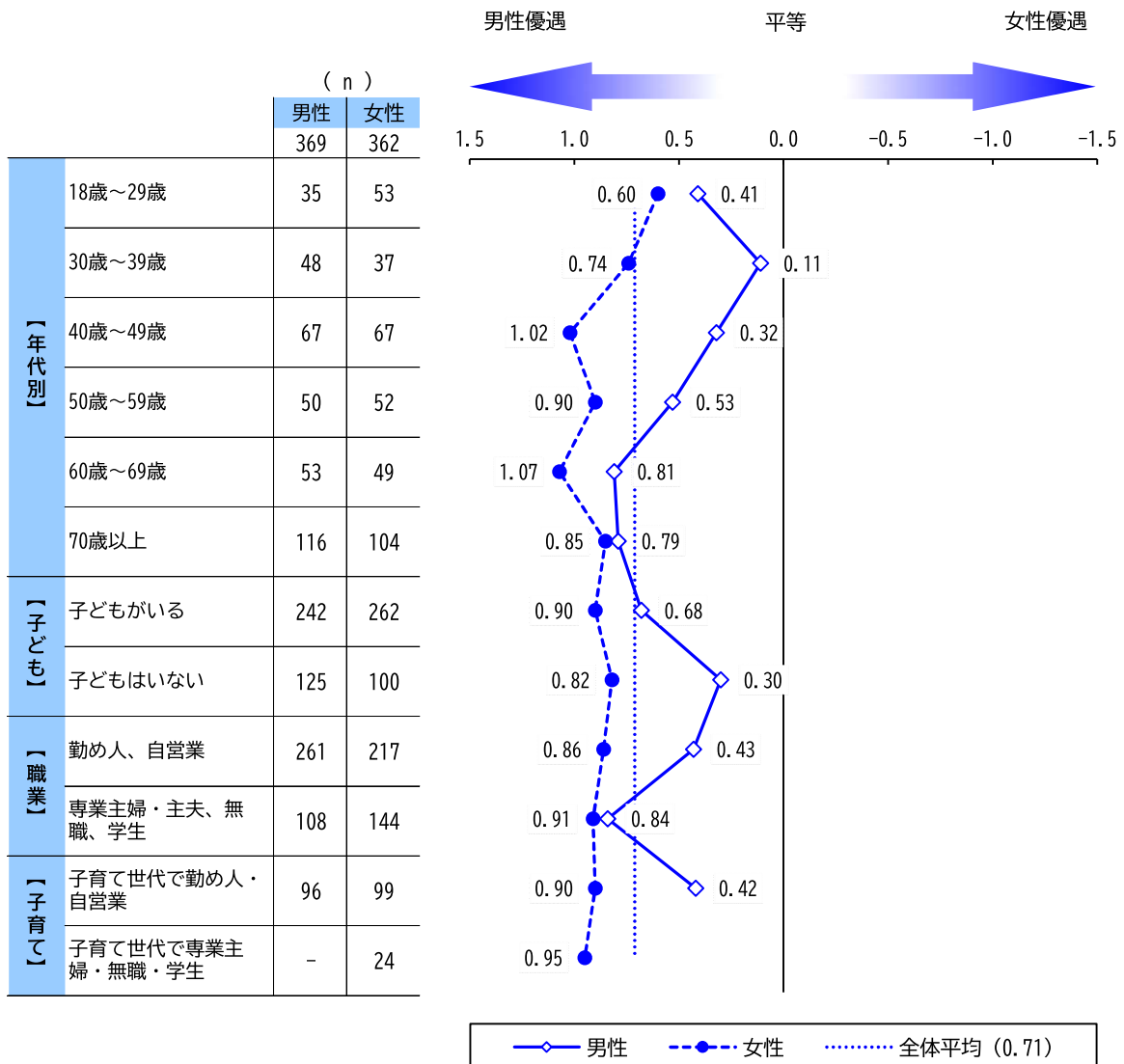
属性別得点をみると、すべての属性で男性優遇側に位置しています。性・年代別で男性と女性の差は、30歳～39歳で0.63ポイント、40歳～49歳で0.70ポイントと比較的大きな差がみられました。

経年比較でみると、今年度調査で『男性優遇』の割合が減少傾向にあります。

【全体・性別・年代別】



【属性別得点】



【得点算出方法】

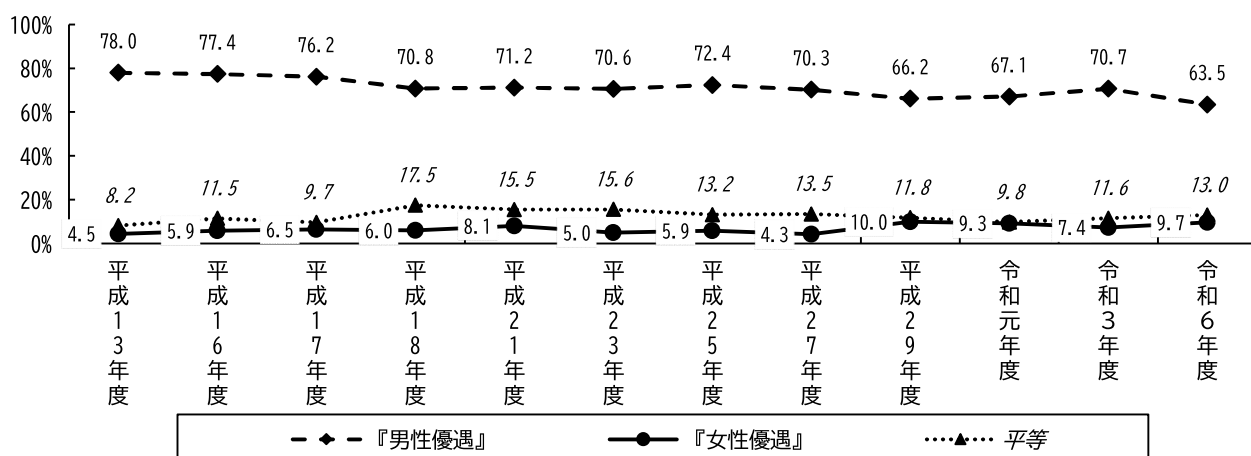
各選択肢を

- ・男性が非常に優遇されている 2点
- ・どちらかといえば男性が優遇されている 1点
- ・平等 0点
- ・どちらかといえば女性が優遇されている -1点
- ・女性が非常に優遇されている -2点

とし、平均点を算出しました。

※「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『男性優遇』（「男性が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性が優遇されている」）

	調査数	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
平成13年度	1,133	10.7%	67.3%	8.2%	4.0%	0.5%	5.8%	3.4%
平成16年度	800	6.9%	70.5%	11.5%	5.6%	0.3%	4.5%	0.8%
平成17年度	836	6.5%	69.7%	9.7%	5.9%	0.6%	6.5%	1.2%
平成18年度	570	7.5%	63.3%	17.5%	5.6%	0.4%	5.1%	0.5%
平成21年度	653	7.8%	63.4%	15.5%	7.5%	0.6%	4.4%	0.8%
平成23年度	577	6.1%	64.5%	15.6%	4.3%	0.7%	8.1%	0.7%
平成25年度	793	7.2%	65.2%	13.2%	5.0%	0.9%	7.4%	1.0%
平成27年度	899	7.1%	63.2%	13.5%	3.7%	0.6%	11.3%	0.7%
平成29年度	782	5.5%	60.7%	11.8%	9.0%	1.0%	11.6%	0.4%
令和元年度	744	7.3%	59.8%	9.8%	8.1%	1.2%	12.5%	1.3%
令和3年度	826	10.3%	60.4%	11.6%	6.2%	1.2%	10.0%	0.2%
令和6年度	732	8.5%	55.1%	13.0%	8.3%	1.4%	13.7%	0.1%

3. 各分野における男女平等感

問3 あなたは、次の分野で男女が平等であると思いますか。(それぞれ1つに○)

【家庭生活】【職場】【地域】【政治の場】【社会通念・慣習・しきたり】で
『男性優遇』と感じる割合が高い。

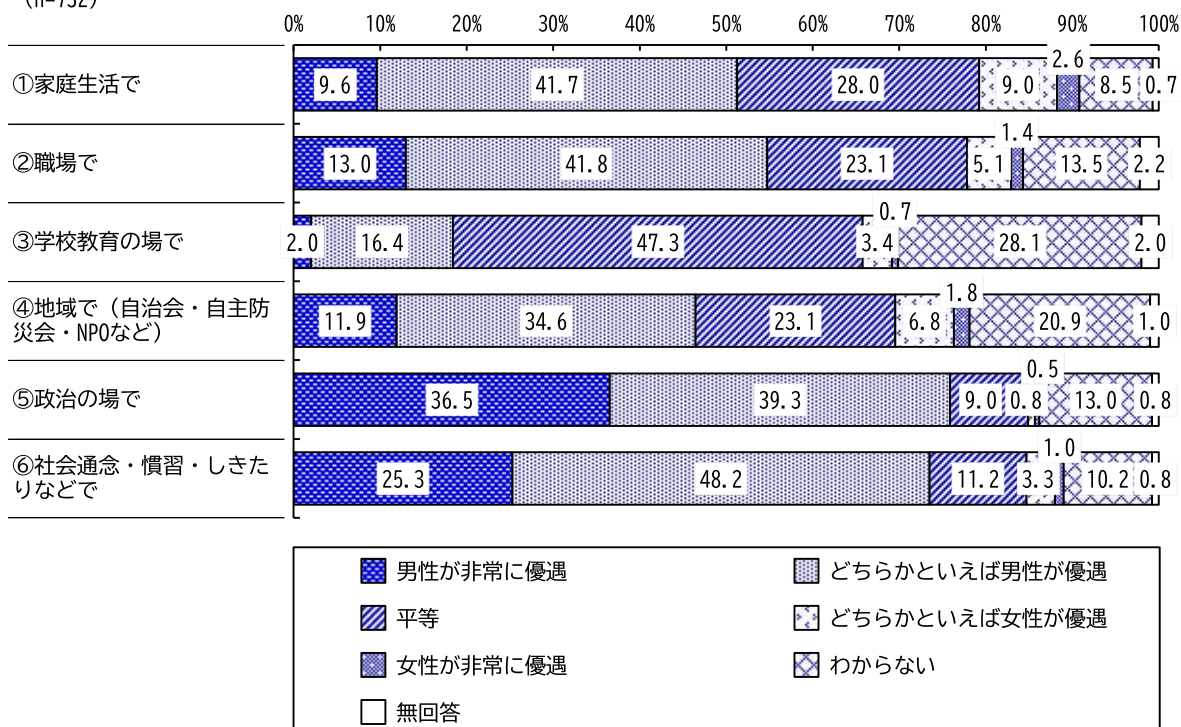
6つの分野において男女が平等になっていると思うかとたずねたところ、『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）と『女性優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」＋「女性が非常に優遇」）の比較では、すべての分野で『男性優遇』が上回っています。

最も『男性優遇』の割合が高かったのは【⑤政治の場で】が75.8%、次に【⑥社会通念・慣習・しきたりなどで】が73.5%となっています。また、【①家庭生活上で】(51.3%)、【②職場で】(54.8%)、【④地域で（自治会・自主防災会・NPOなど）】(46.5%)となっています。

最も「平等」の割合が高かったのは【③学校教育の場で】が47.3%で、半数近くが「平等」と感じています。また、【①家庭生活上で】(28.0%)、【②職場で】(23.1%)、【④地域で（自治会・自主防災会・NPOなど）】(23.1%)が2割以上となっています。

【全体】

(n=732)



①家庭生活で

家庭生活で『男性優遇』と感じている人は半数。

【①家庭生活で】は『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）が51.3%、『女性優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」＋「女性が非常に優遇」）が11.6%となっています。

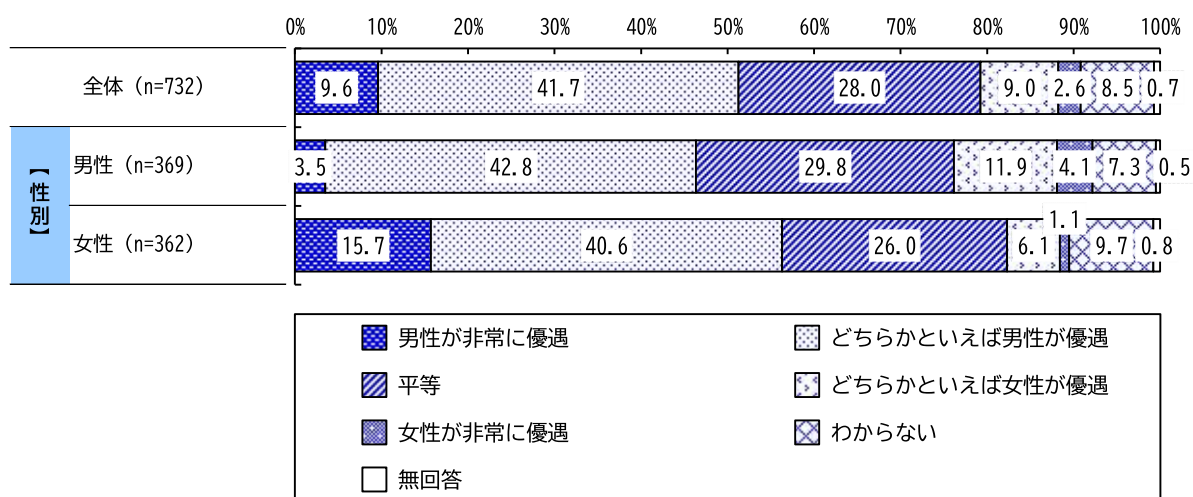
性別でみると、「男性が非常に優遇」が男性は3.5%、女性は15.7%となっており、男女間で差がみられます。

性・年代別でみると、男性は40歳～49歳で、女性は18歳～29歳で『男性優遇』の割合が他の年代に比べて低くなっています。

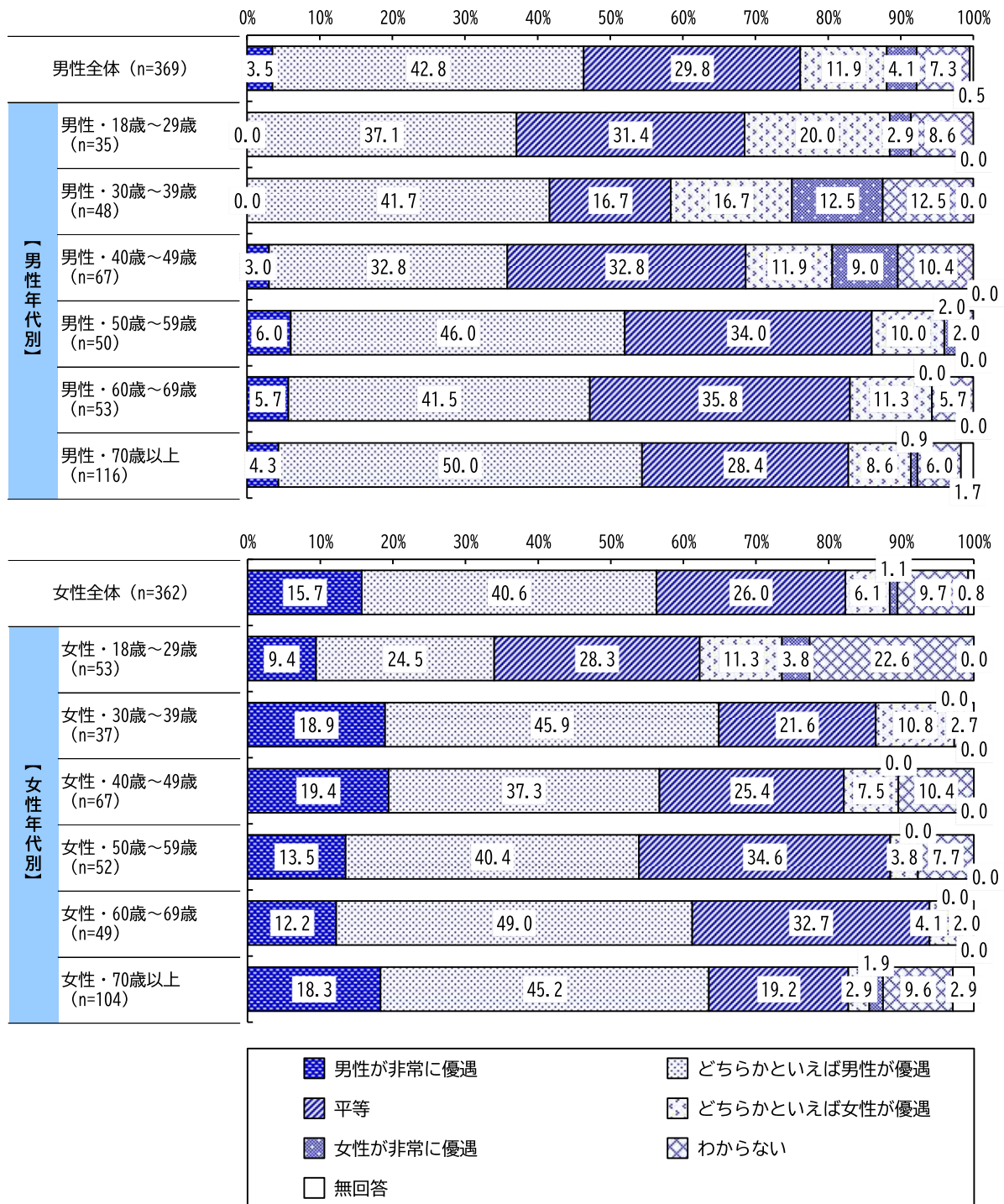
属性別得点をみると、男性30歳～39歳以外のすべての属性で男性優遇側に位置しています。性・年代別で男性と女性の差は、30歳～39歳で0.75ポイント、40歳～49歳で0.67ポイントと比較的大きな差がみられました。

経年比較でみると、『男性優遇』の割合が減少傾向にあります。

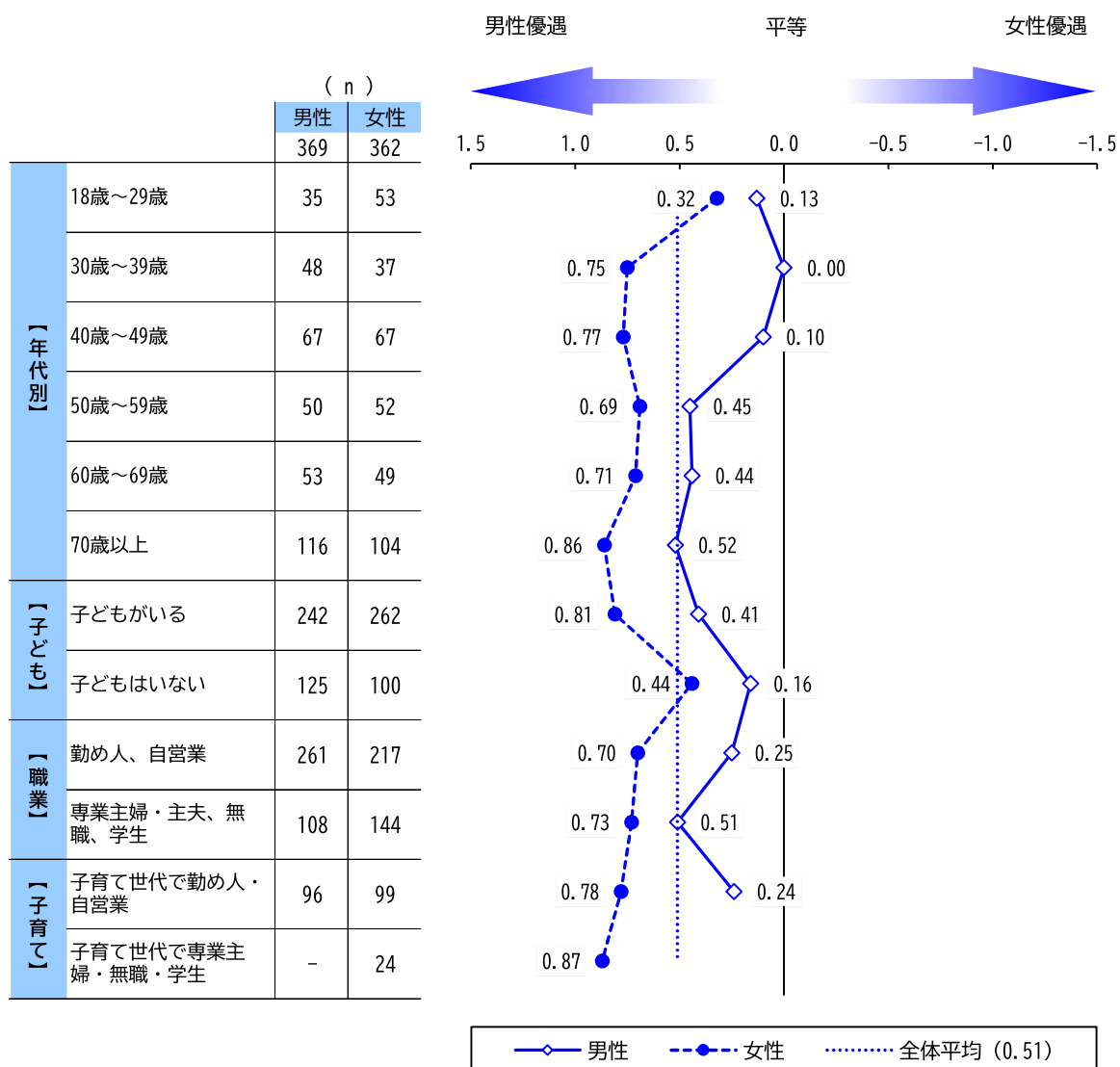
【全体・性別】



【性・年代別】



【属性別得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

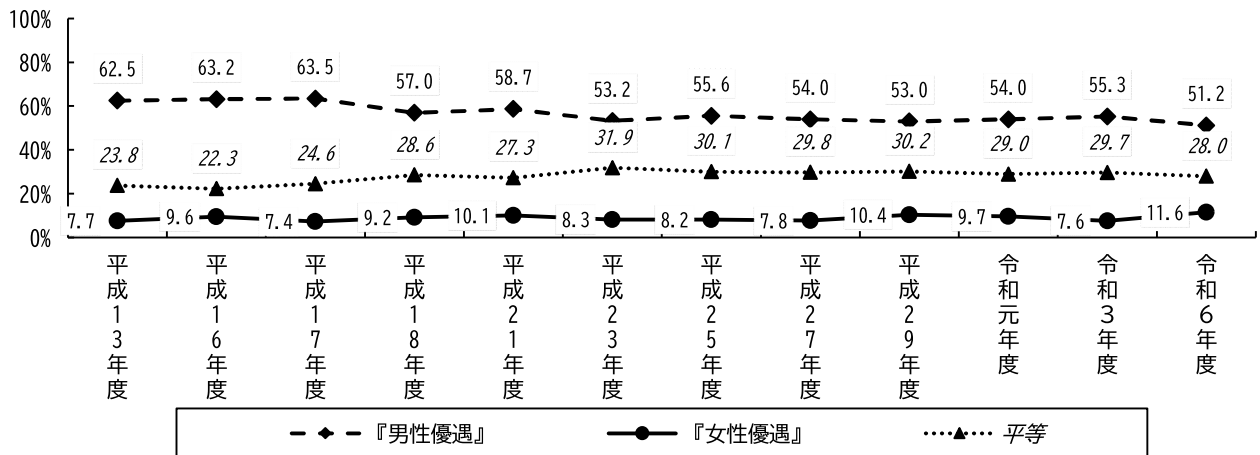
- ・男性が非常に優遇 2点
- ・平等 0点
- ・女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

- ・どちらかといえば男性が優遇 1点
- ・どちらかといえば女性が優遇 -1点

※「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	12.4%	50.1%	23.8%	7.1%	0.6%	3.7%	2.2%
平成16年度	800	10.1%	53.1%	22.3%	8.6%	1.0%	2.9%	2.0%
平成17年度	836	11.0%	52.5%	24.6%	6.1%	1.3%	2.9%	1.6%
平成18年度	570	9.1%	47.9%	28.6%	8.1%	1.1%	2.8%	2.5%
平成21年度	653	10.6%	48.1%	27.3%	8.6%	1.5%	2.5%	1.5%
平成23年度	577	9.5%	43.7%	31.9%	6.6%	1.7%	5.0%	1.6%
平成25年度	793	10.5%	45.1%	30.1%	7.3%	0.9%	4.2%	1.9%
平成27年度	899	12.0%	42.0%	29.8%	6.8%	1.0%	5.8%	2.6%
平成29年度	782	10.4%	42.6%	30.2%	8.7%	1.7%	5.4%	1.2%
令和元年度	744	11.0%	43.0%	29.0%	8.6%	1.1%	5.6%	1.6%
令和3年度	826	10.0%	45.3%	29.7%	6.1%	1.5%	6.9%	0.6%
令和6年度	732	9.6%	41.7%	28.0%	9.0%	2.6%	8.5%	0.7%

②職場で

職場で『男性優遇』と感じている人は5割強。

【②職場で】は『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）が54.8%、『女性優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」＋「女性が非常に優遇」）が6.5%となっています。

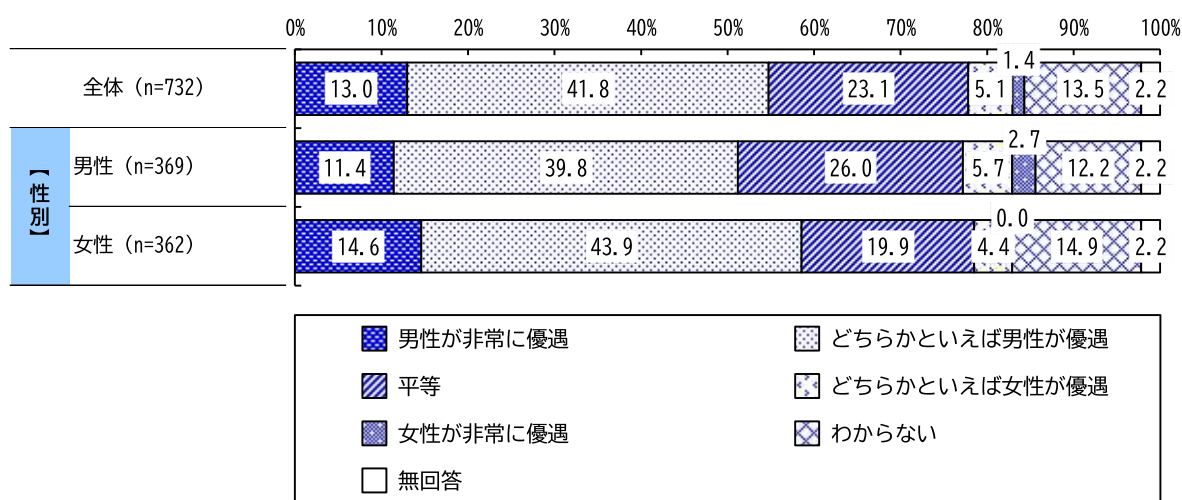
性別でみると、『男性優遇』が男性は51.2%、女性は58.5%となっており、男女間でやや差がみられます。

性・年代別でみると、女性の30歳～39歳で『男性優遇』が70.3%となっています。

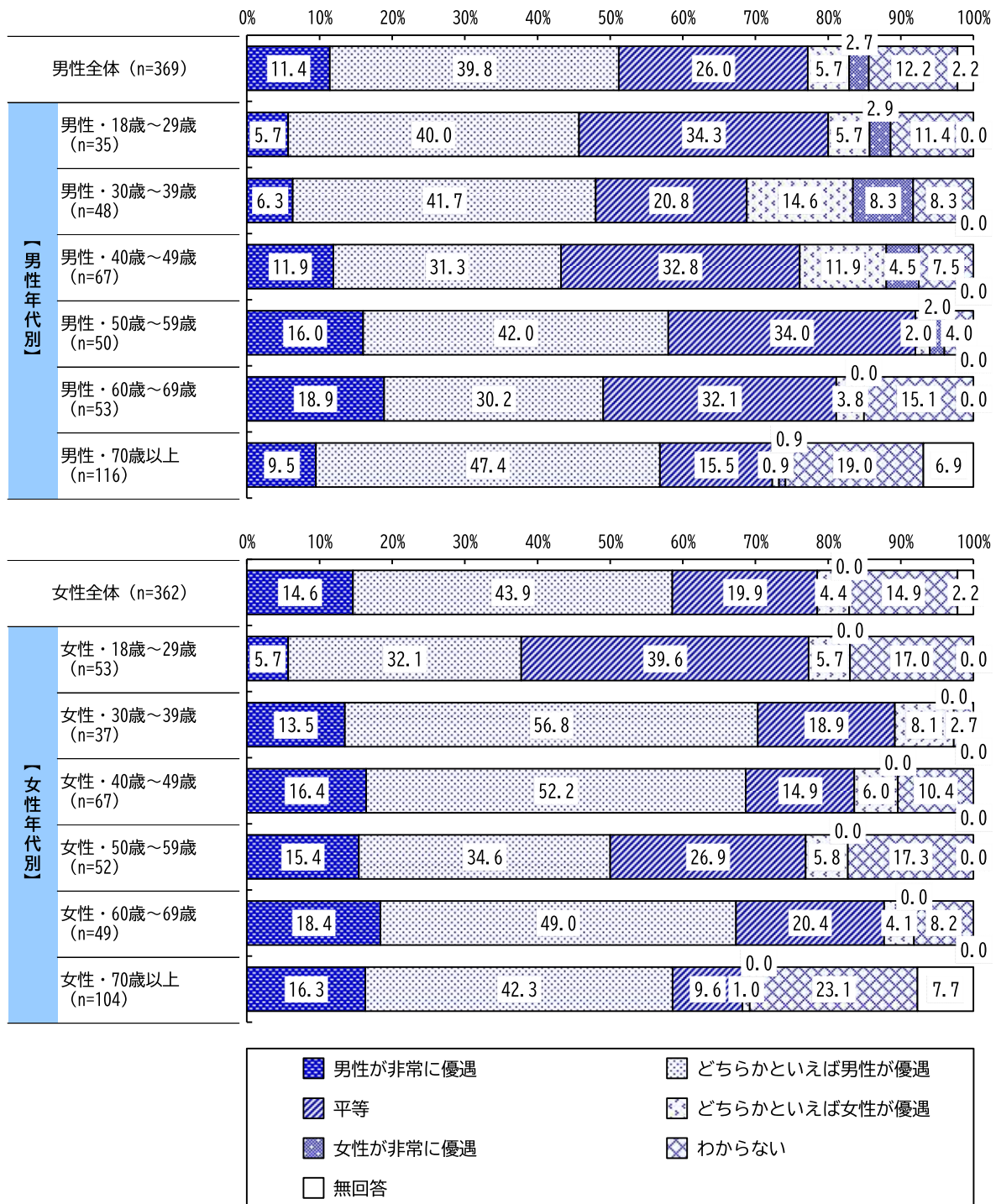
属性別得点をみると、すべての属性で男性優遇側に位置しています。性・年代別で男性と女性の差は、30歳～39歳で0.53ポイント、40歳～49歳で0.51ポイントとやや差がみられました。

経年比較でみると、『男性優遇』の割合が減少傾向にあります。

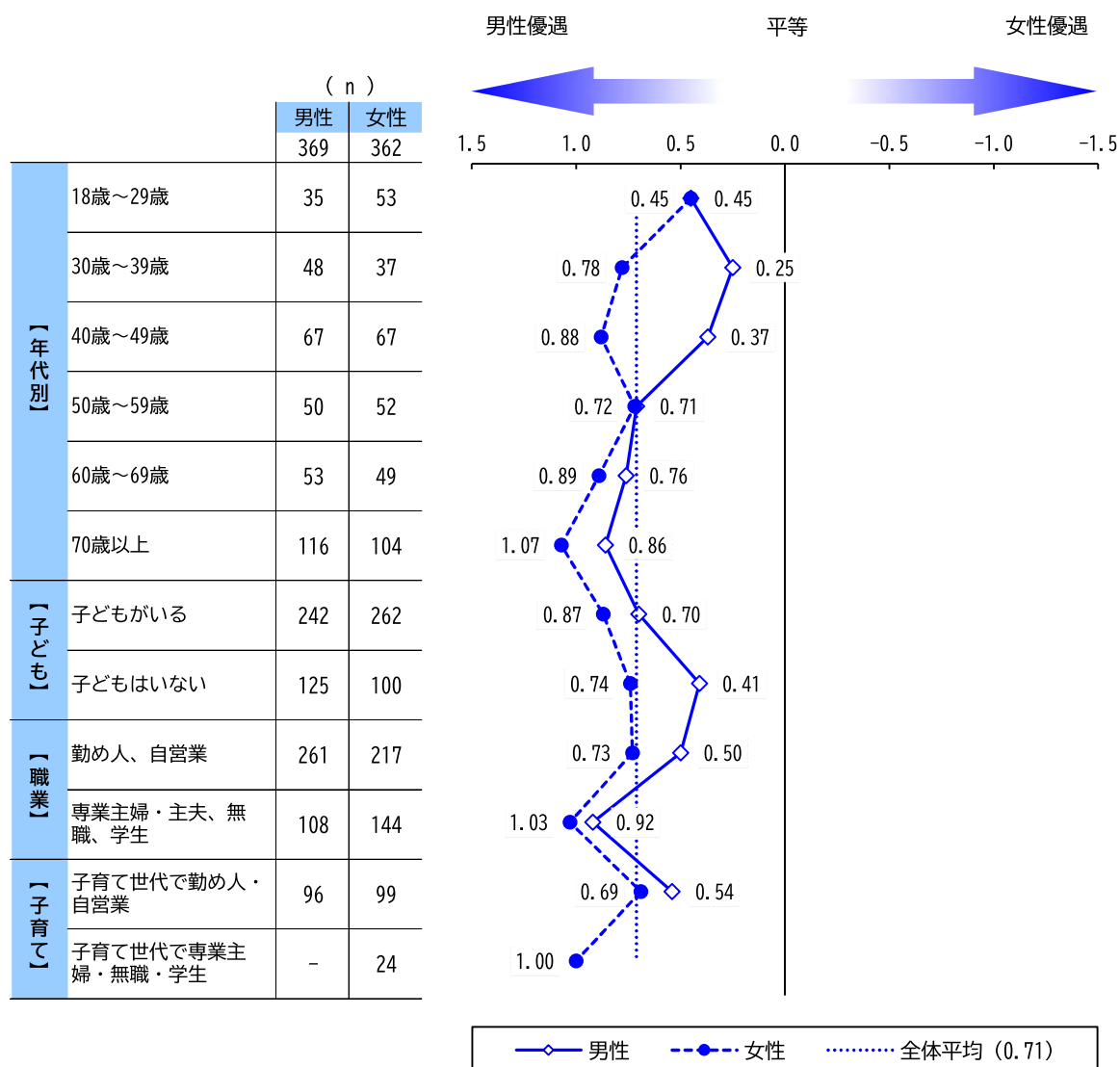
【全体・性別】



【性・年代別】



【属性別得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

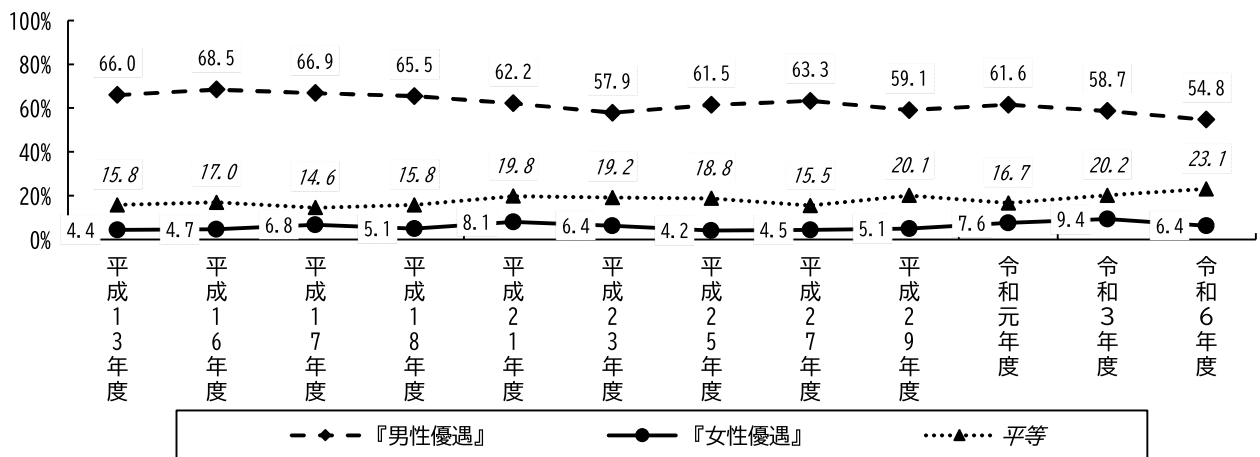
- ・男性が非常に優遇 2点
- ・平等 0点
- ・女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

- ・どちらかといえば男性が優遇 1点
- ・どちらかといえば女性が優遇 -1点

※「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	19.2%	46.8%	15.8%	4.0%	0.4%	9.2%	4.8%
平成16年度	800	18.5%	50.0%	17.0%	4.6%	0.1%	6.3%	3.5%
平成17年度	836	15.9%	51.0%	14.6%	6.1%	0.7%	7.8%	3.9%
平成18年度	570	17.4%	48.1%	15.8%	4.2%	0.9%	8.9%	4.7%
平成21年度	653	16.1%	46.1%	19.8%	7.2%	0.9%	7.7%	2.3%
平成23年度	577	13.5%	44.4%	19.2%	5.2%	1.2%	11.3%	5.2%
平成25年度	793	16.6%	44.9%	18.8%	3.4%	0.8%	10.5%	5.0%
平成27年度	899	15.1%	48.2%	15.5%	4.1%	0.4%	12.5%	4.2%
平成29年度	782	13.2%	45.9%	20.1%	4.3%	0.8%	12.3%	3.5%
令和元年度	744	10.9%	50.7%	16.7%	6.7%	0.9%	12.0%	2.2%
令和3年度	826	13.3%	45.4%	20.2%	7.9%	1.5%	9.7%	2.1%
令和6年度	732	13.0%	41.8%	23.1%	5.1%	1.4%	13.5%	2.2%

③学校教育の場で

学校教育の場で「平等」と感じている人は47.3%。

【③学校教育の場で】は「平等」が47.3%となっています。

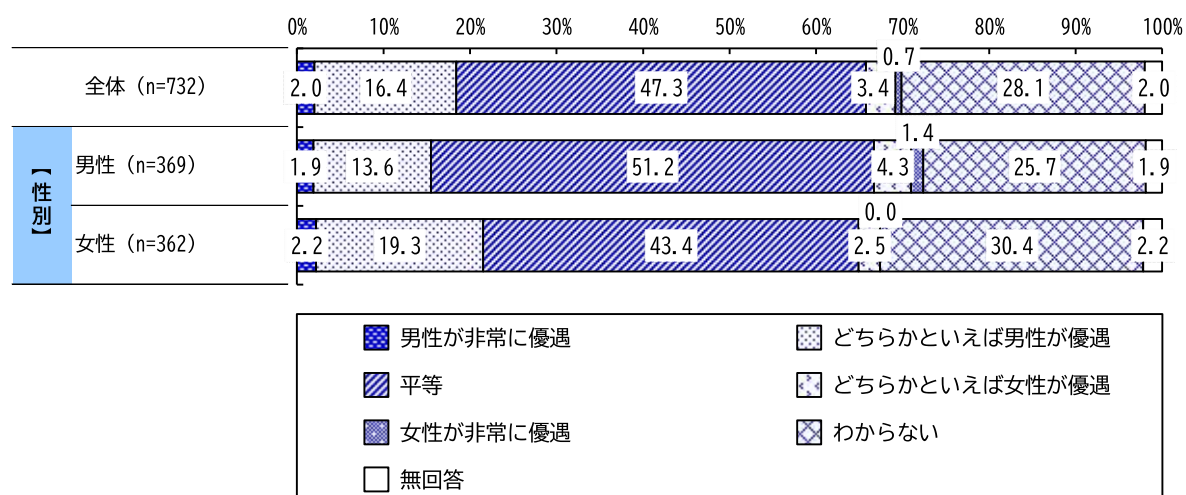
性別でみると、「平等」が男性は51.2%、女性は43.4%となっています。

性・年代別でみると、男性の30歳～39歳で『男性優遇』が2.1%と他の年代に比べて低くなっています。

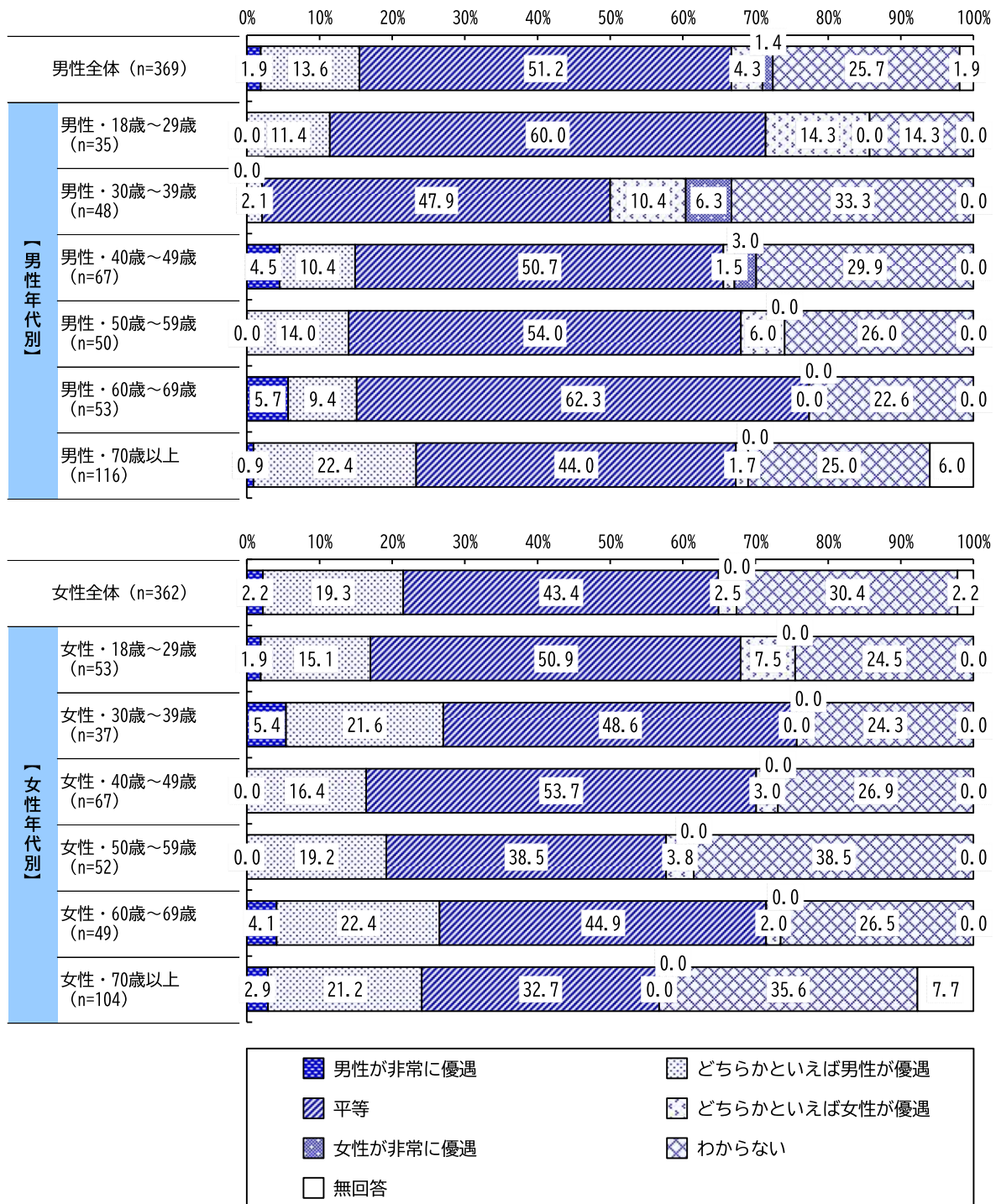
属性別得点をみると、性・年代別で男性と女性の差は、30歳～39歳で0.74ポイントと比較的大きな差がみられました。

経年比較でみると、「平等」の割合が前回調査より低くなっています。

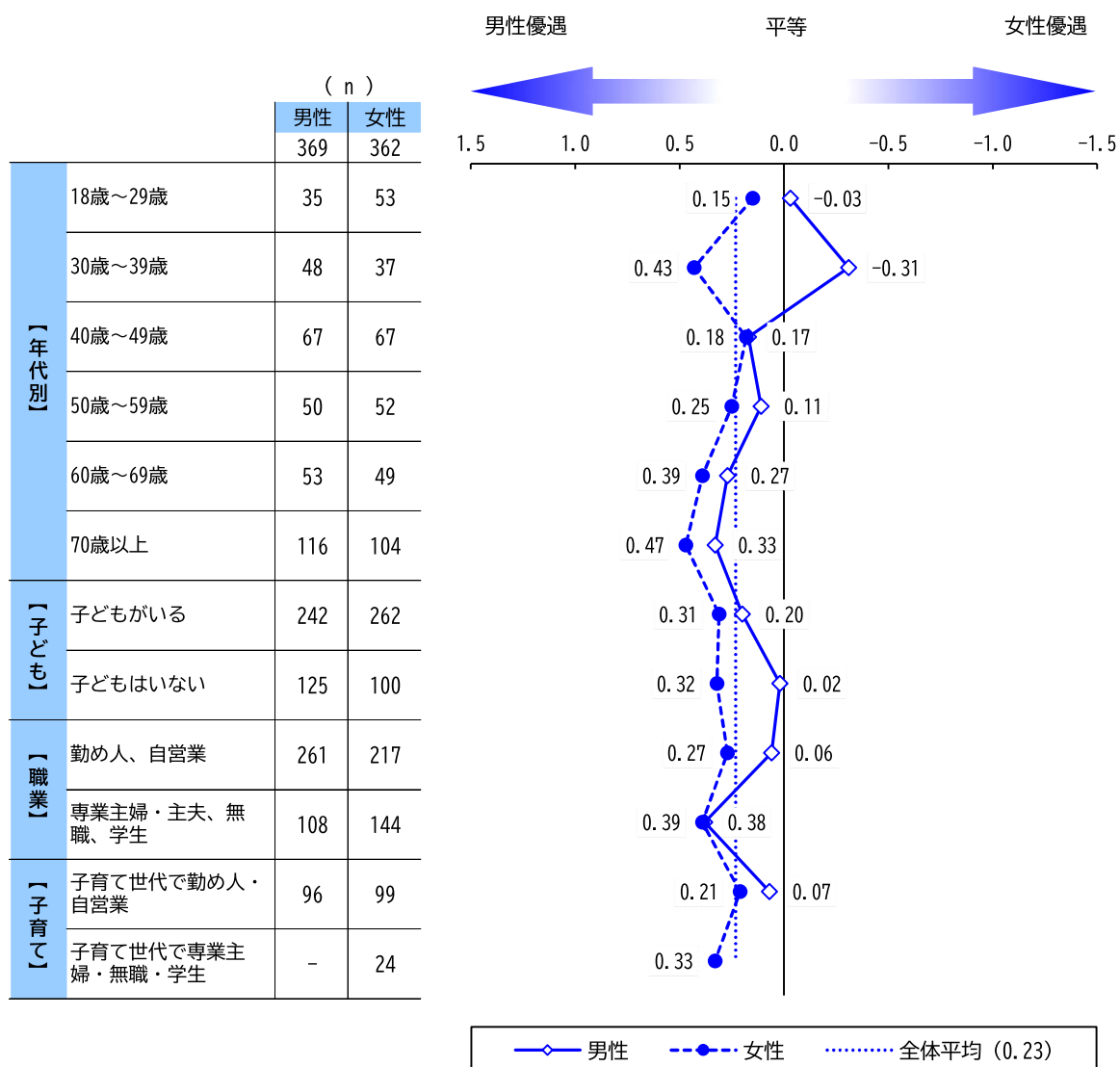
【全体・性別】



【性・年代別】



【属性別得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

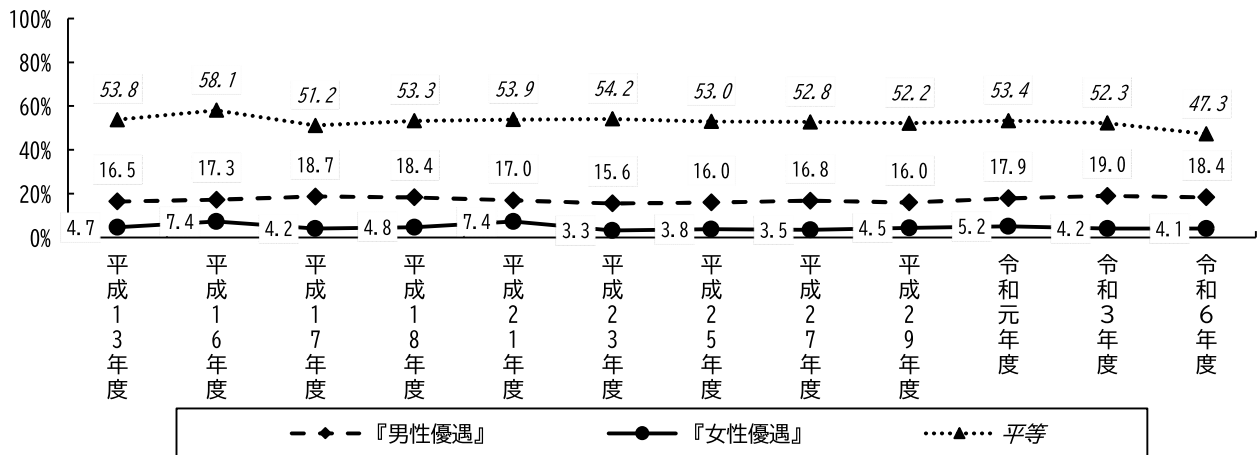
- ・男性が非常に優遇 2点
- ・平等 0点
- ・女性が非常に優遇 -2点

- ・どちらかといえば男性が優遇 1点
- ・どちらかといえば女性が優遇 -1点

とし、平均点を算出しました。

※「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	1.8%	14.7%	53.8%	4.3%	0.4%	18.1%	6.8%
平成16年度	800	2.4%	14.9%	58.1%	6.5%	0.9%	14.1%	3.1%
平成17年度	836	1.7%	17.0%	51.2%	3.8%	0.4%	20.9%	5.0%
平成18年度	570	1.9%	16.5%	53.3%	3.9%	0.9%	18.1%	5.4%
平成21年度	653	1.7%	15.3%	53.9%	6.9%	0.5%	18.1%	3.7%
平成23年度	577	1.6%	14.0%	54.2%	2.8%	0.5%	20.6%	6.2%
平成25年度	793	2.4%	13.6%	53.0%	3.2%	0.6%	21.2%	6.1%
平成27年度	899	1.9%	14.9%	52.8%	3.3%	0.2%	22.1%	4.7%
平成29年度	782	2.6%	13.4%	52.2%	3.6%	0.9%	24.2%	3.2%
令和元年度	744	1.5%	16.4%	53.4%	4.7%	0.5%	20.7%	2.8%
令和3年度	826	1.6%	17.4%	52.3%	3.8%	0.4%	21.9%	2.7%
令和6年度	732	2.0%	16.4%	47.3%	3.4%	0.7%	28.1%	2.0%

④地域で（自治会・自主防災会・NPO など）

地域の活動で『男性優遇』と感じている人は46.5%。

【④地域で（自治会・自主防災会・NPO など）】は『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）が46.5%、『女性優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」＋「女性が非常に優遇」）が8.6%となっています。

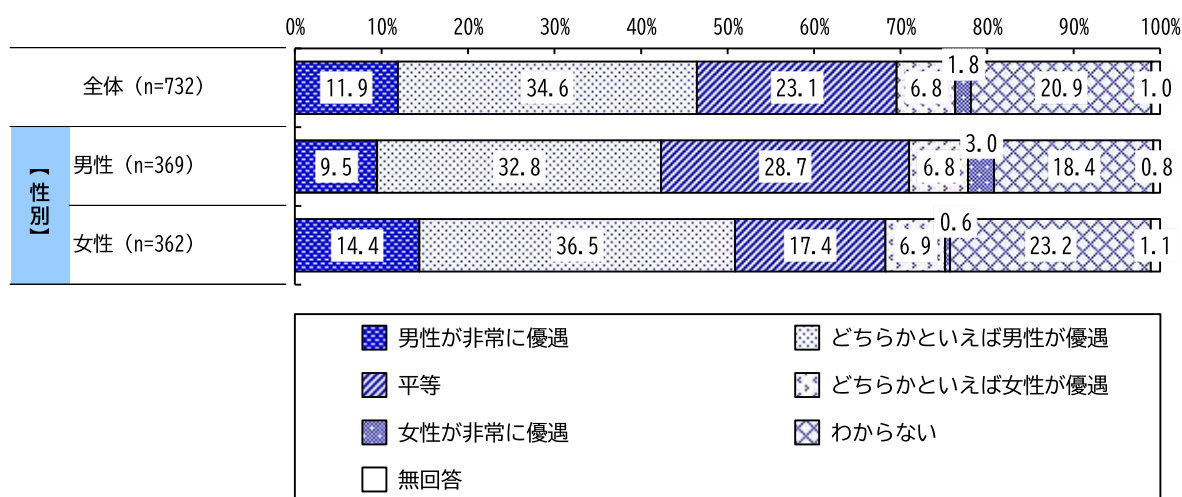
性別でみると、「平等」が男性は28.7%、女性は17.4%となっており、男女間で差がみられます。

性・年代別でみると、女性の60歳～69歳で『男性優遇』が73.5%と他の年代に比べて高くなっています。また、男性の18歳～29歳、30歳～39歳、女性の18歳～29歳で『男性優遇』の割合が他の年代に比べて低くなっています。

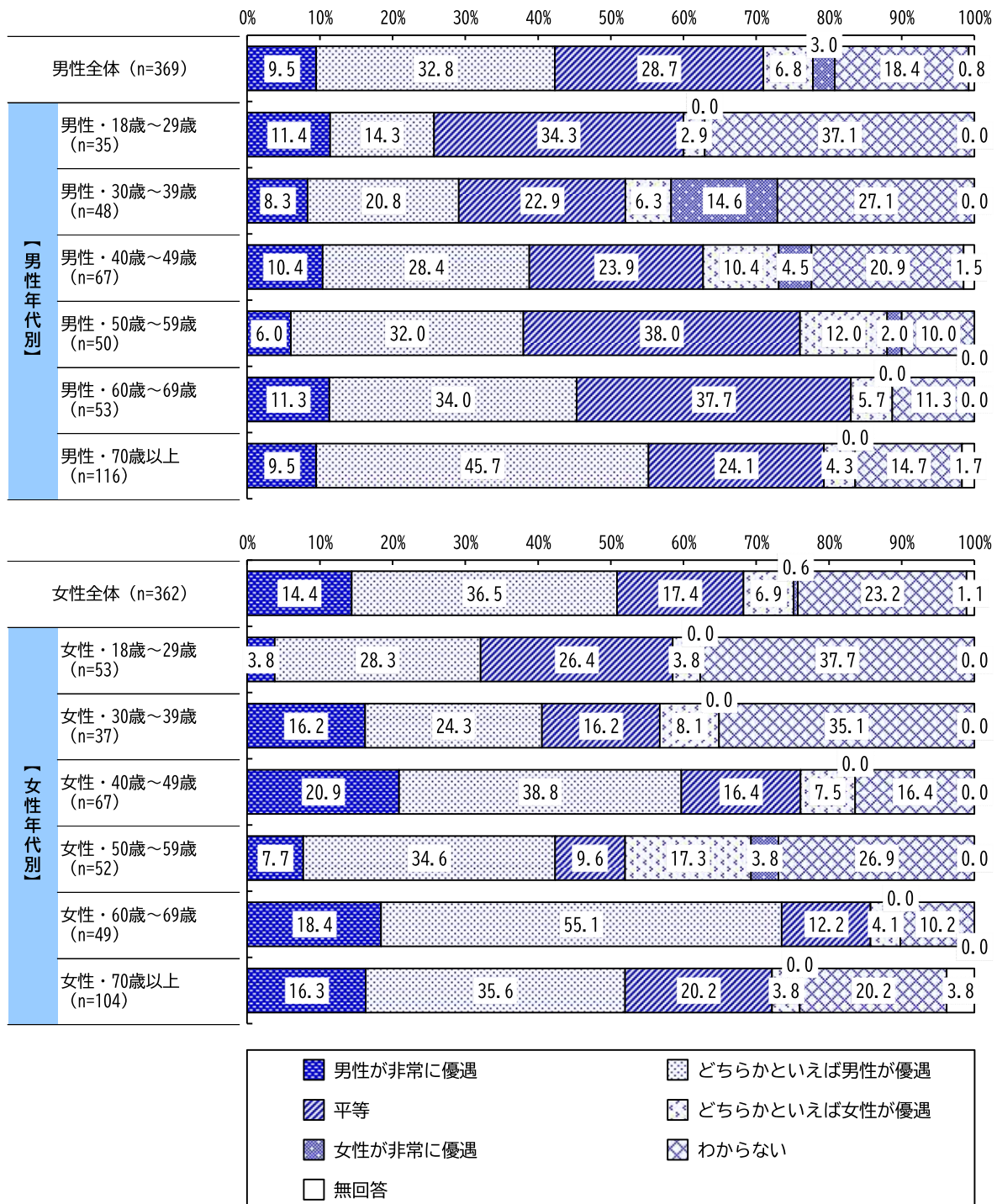
属性別得点をみると、すべての属性で男性優遇側に位置しています。性・年代別で男性と女性の差は、30歳～39歳で0.72ポイントと比較的大きな差がみられました。

経年比較でみると、『男性優遇』の割合が前回調査より低くなっています。

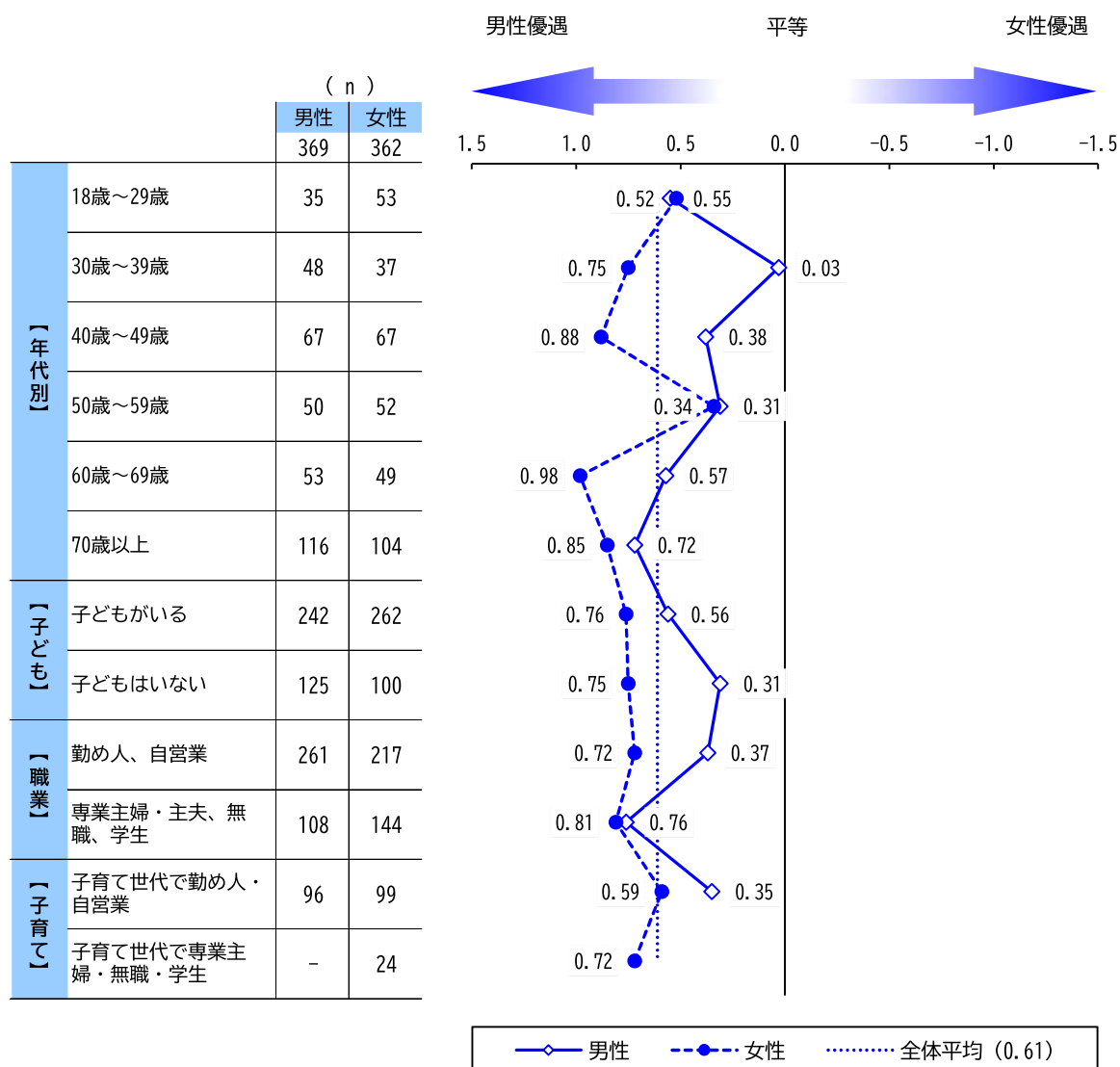
【全体・性別】



【性・年代別】



【属性別得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

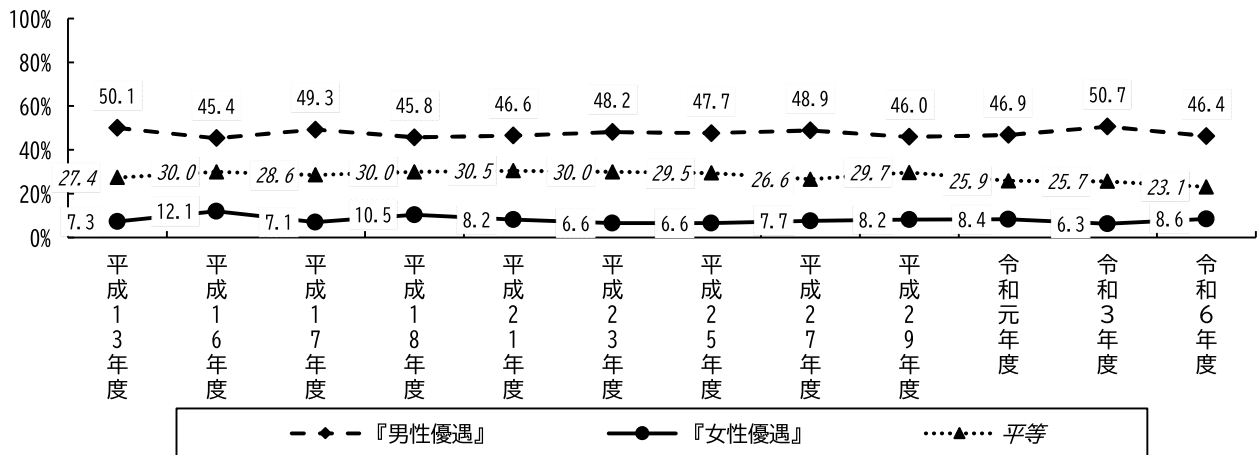
- ・男性が非常に優遇 2点
- ・平等 0点
- ・女性が非常に優遇 -2点

- ・どちらかといえば男性が優遇 1点
- ・どちらかといえば女性が優遇 -1点

とし、平均点を算出しました。

※「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	8.9%	41.2%	27.4%	6.7%	0.6%	11.1%	4.0%
平成16年度	800	7.5%	37.9%	30.0%	11.6%	0.5%	9.4%	3.1%
平成17年度	836	7.9%	41.4%	28.6%	6.6%	0.5%	11.8%	3.2%
平成18年度	570	8.8%	37.0%	30.0%	9.8%	0.7%	10.5%	3.2%
平成21年度	653	7.5%	39.1%	30.5%	7.7%	0.5%	11.5%	3.4%
平成23年度	577	9.7%	38.5%	30.0%	5.2%	1.4%	12.1%	3.1%
平成25年度	793	9.7%	38.0%	29.5%	6.1%	0.5%	12.5%	3.8%
平成27年度	899	10.3%	38.6%	26.6%	7.3%	0.4%	13.8%	2.9%
平成29年度	782	10.1%	35.9%	29.7%	7.0%	1.2%	15.1%	1.0%
令和元年度	744	8.5%	38.4%	25.9%	7.7%	0.7%	16.4%	2.4%
令和3年度	826	10.9%	39.8%	25.7%	5.6%	0.7%	16.5%	0.8%
令和6年度	732	11.9%	34.6%	23.1%	6.8%	1.8%	20.9%	1.0%

⑤政治の場で

政治の場で『男性優遇』と感じている人は 75.8%、
女性の 40 代では9割が『男性優遇』と感じている。

【⑤政治の場で】は『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）が 75.8%、
『女性優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」＋「女性が非常に優遇」）が 1.3%となっています。

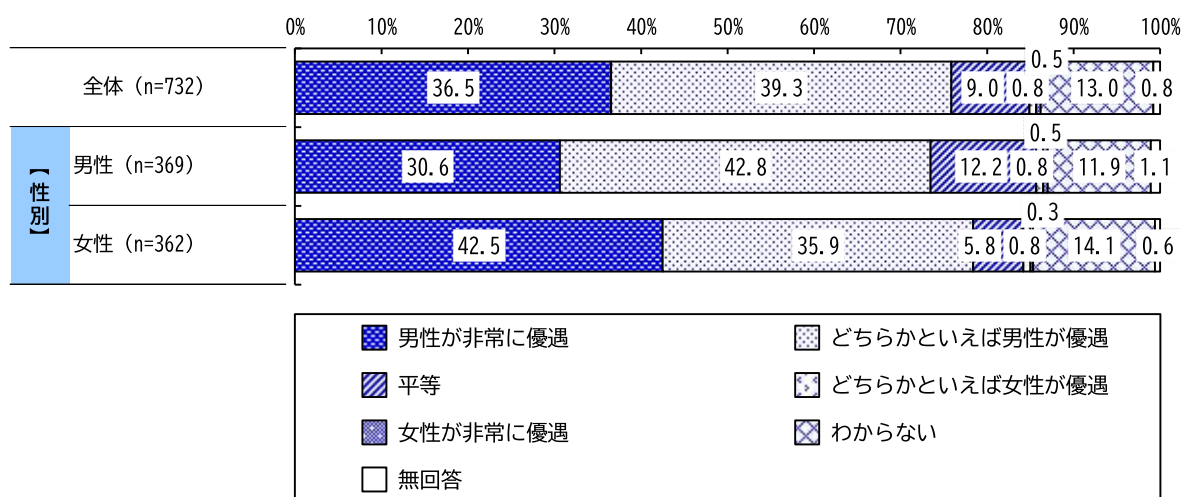
性別でみると、「男性が非常に優遇」が男性は 30.6%、女性は 42.5%となっており、男女間で差がみられます。

性・年代別でみると、『男性優遇』が女性の 40 歳～49 歳で 91.0%、60 歳～69 歳で 89.8%などとなっています。また、男性、女性ともに 18 歳～29 歳で『男性優遇』の割合が他の年代に比べてやや低くなっています。

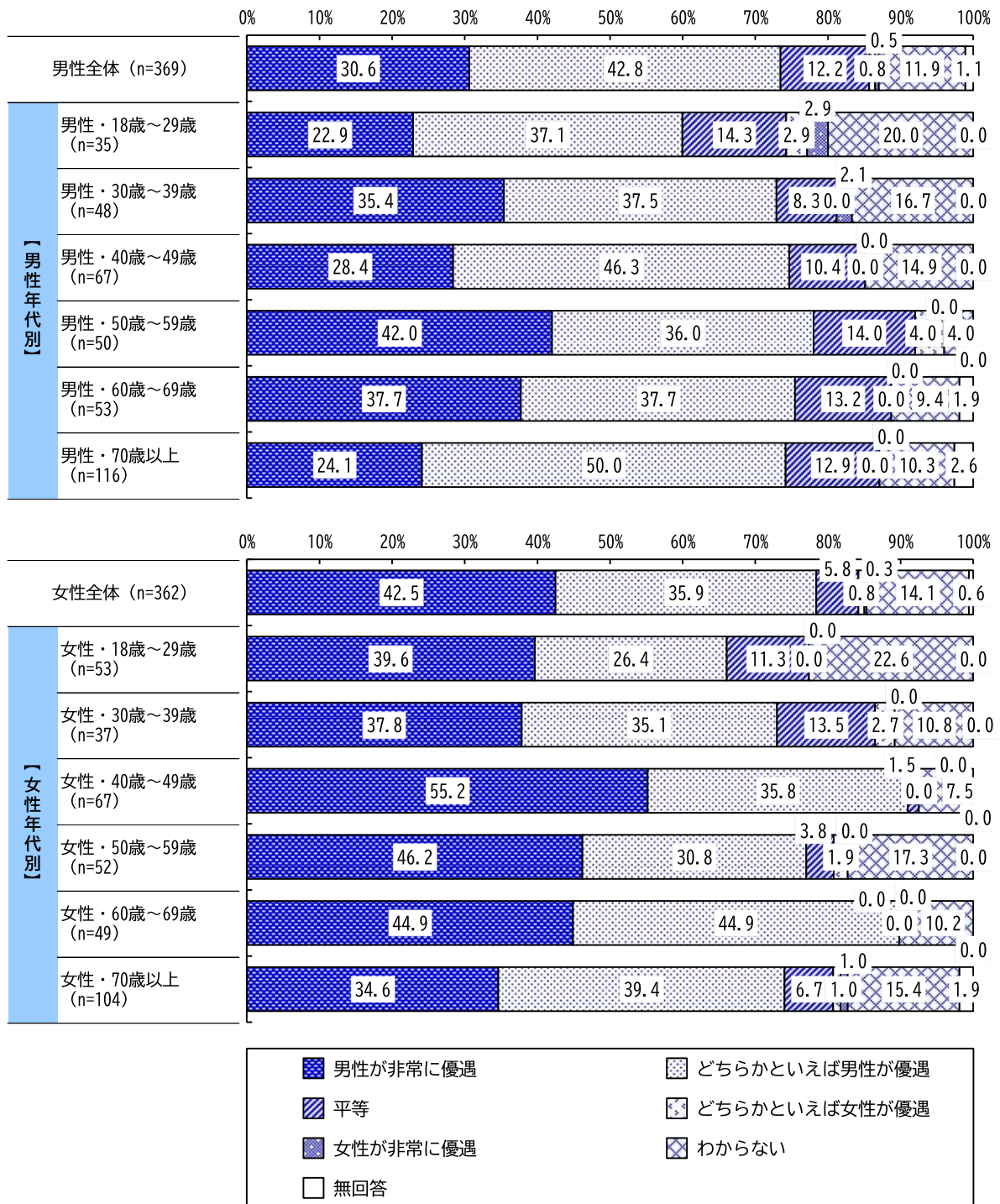
属性別得点をみると、すべての属性で男性優遇側に位置しています。

経年比較でみると、『男性優遇』の割合が前回調査より低くなっています。

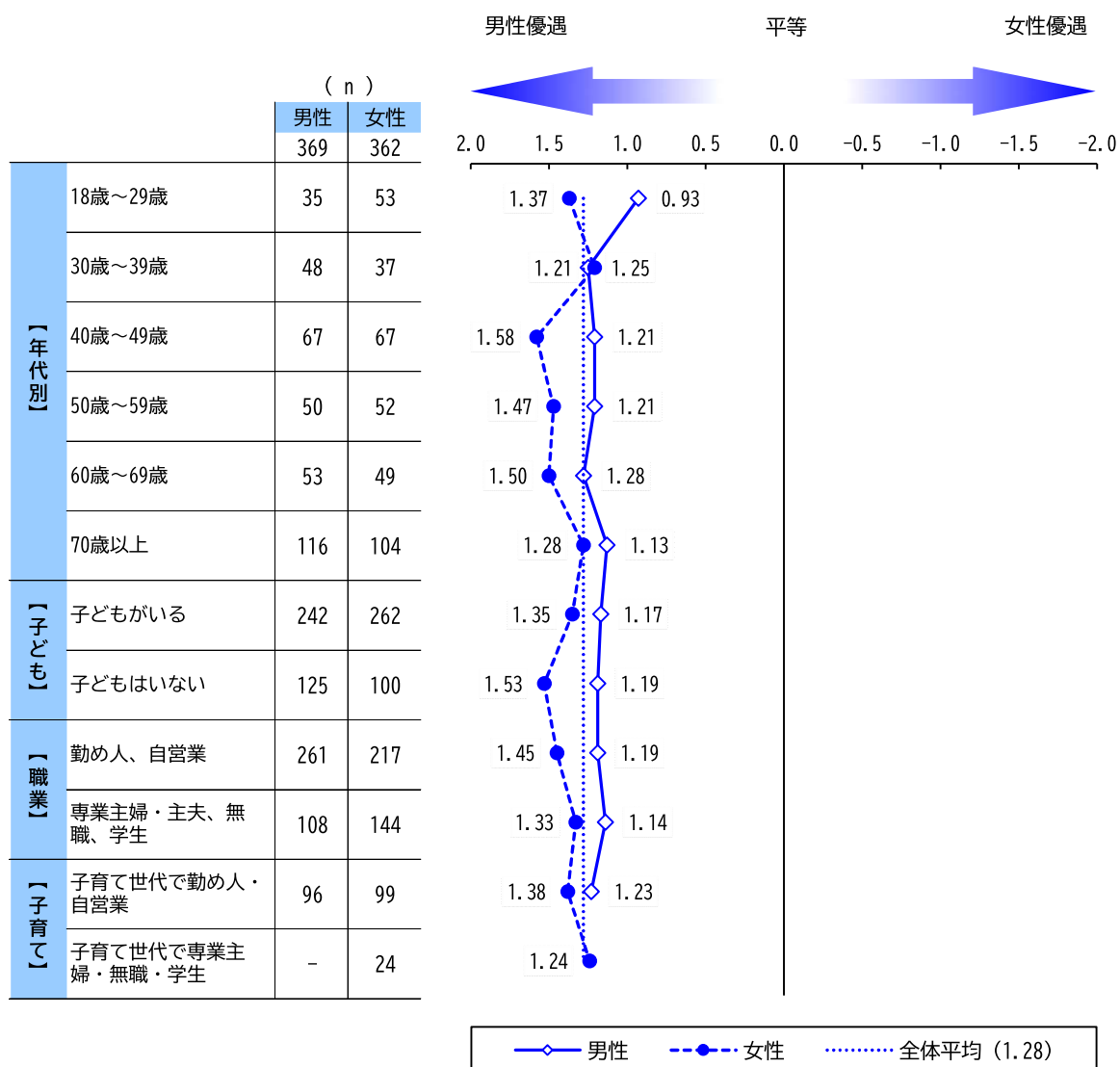
【全体・性別】



【性・年代別】



【属性別得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

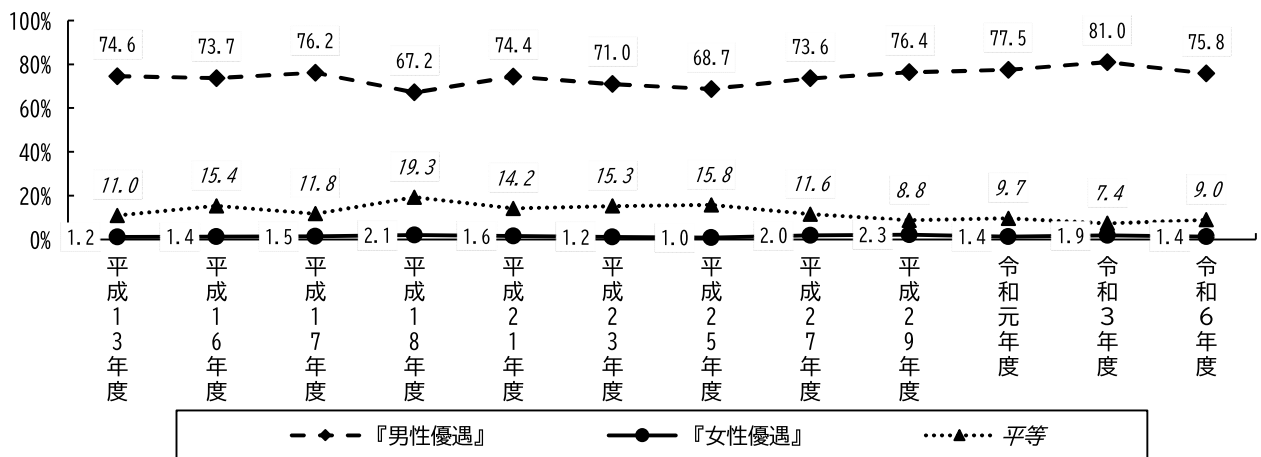
- ・男性が非常に優遇 2点
- ・平等 0点
- ・女性が非常に優遇 -2点

- ・どちらかといえば男性が優遇 1点
- ・どちらかといえば女性が優遇 -1点

とし、平均点を算出しました。

※「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	29.9%	44.7%	11.0%	1.1%	0.1%	9.4%	3.8%
平成16年度	800	30.3%	43.4%	15.4%	1.3%	0.1%	7.1%	2.5%
平成17年度	836	31.3%	44.9%	11.8%	1.1%	0.4%	7.1%	3.5%
平成18年度	570	25.3%	41.9%	19.3%	1.9%	0.2%	8.1%	3.3%
平成21年度	653	29.4%	45.0%	14.2%	1.4%	0.2%	7.8%	2.0%
平成23年度	577	27.2%	43.8%	15.3%	1.0%	0.2%	9.2%	3.3%
平成25年度	793	25.7%	43.0%	15.8%	0.9%	0.1%	10.3%	4.2%
平成27年度	899	30.9%	42.7%	11.6%	1.6%	0.4%	9.6%	3.2%
平成29年度	782	28.6%	47.8%	8.8%	2.0%	0.3%	11.1%	1.3%
令和元年度	744	31.9%	45.6%	9.7%	1.3%	0.1%	9.3%	2.2%
令和3年度	826	38.6%	42.4%	7.4%	1.7%	0.2%	8.8%	0.8%
令和6年度	732	36.5%	39.3%	9.0%	0.8%	0.5%	13.0%	0.8%

⑥社会通念・慣習・しきたりなどで

社会通念・慣習・しきたりなどで『男性優遇』と感じている人は73.5%。

【⑥社会通念・慣習・しきたりなどで】は『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）が73.5%、『女性優遇』（「どちらかといえば女性が優遇」＋「女性が非常に優遇」）が4.3%となっています。

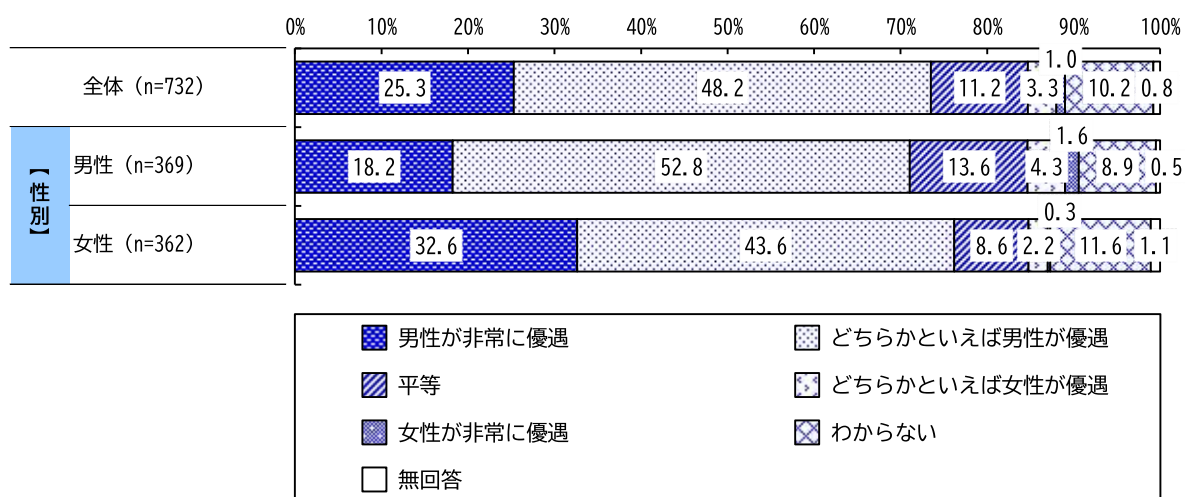
性別でみると、「男性が非常に優遇」が男性は18.2%、女性は32.6%となっており、男女間で差がみられます。

性・年代別でみると、『男性優遇』が女性の40歳～49歳で86.6%、60歳～69歳で87.8%などとなっています。

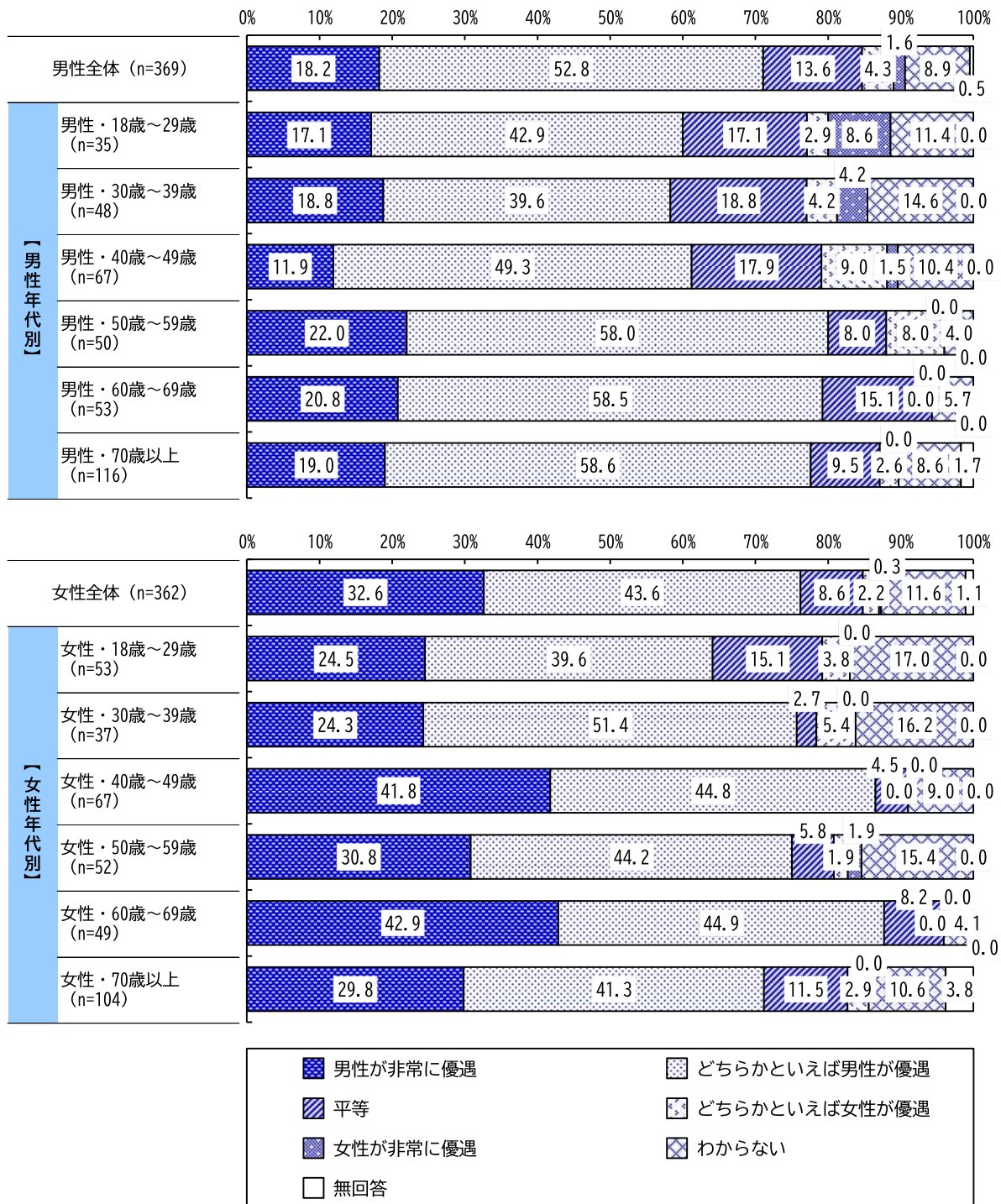
属性別得点をみると、すべての属性で男性優遇側に位置しています。性・年代別で男性と女性の差は、40歳～49歳で0.73ポイントと比較的大きな差がみられました。

経年比較でみると、『男性優遇』の割合が前回調査より低くなっています。

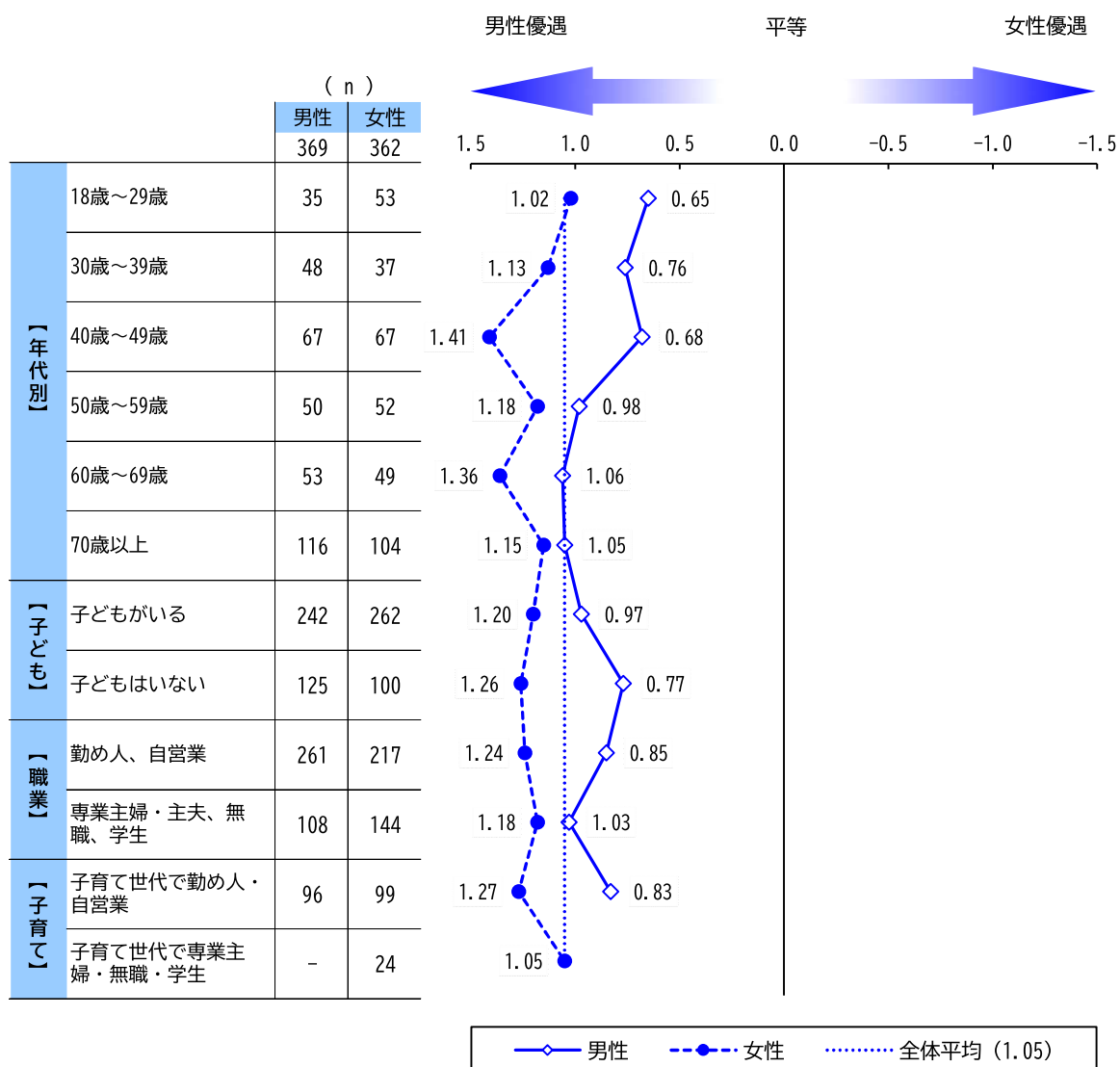
【全体・性別】



【性・年代別】



【属性別得点】



【得点算出方法】

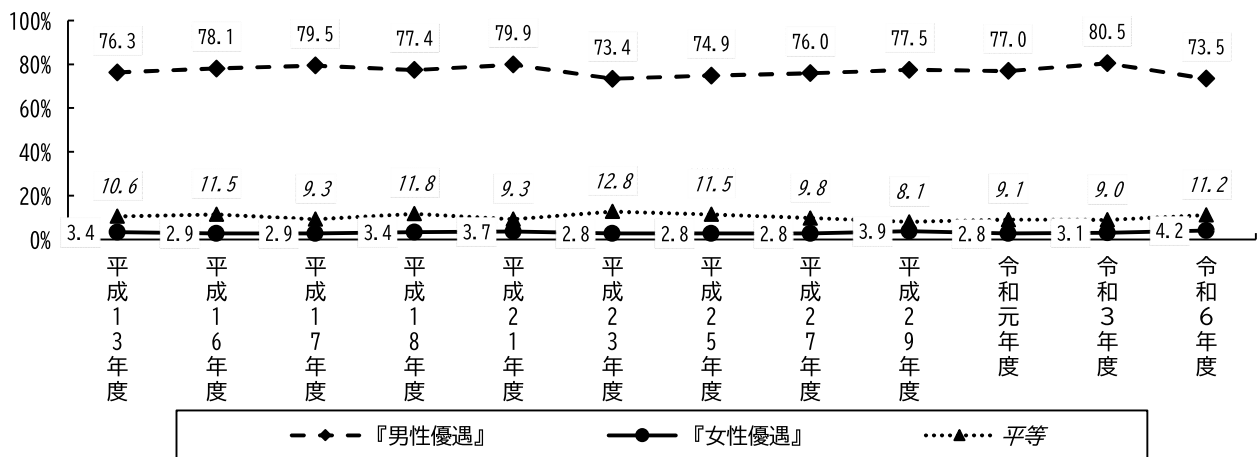
各選択肢を

- ・男性が非常に優遇 2点
- ・どちらかといえば男性が優遇 1点
- ・平等 0点
- ・どちらかといえば女性が優遇 -1点
- ・女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

※「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性が優遇」）

	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	23.9%	52.4%	10.6%	2.5%	0.9%	6.6%	3.1%
平成16年度	800	23.0%	55.1%	11.5%	2.5%	0.4%	5.1%	2.4%
平成17年度	836	25.2%	54.3%	9.3%	2.4%	0.5%	5.5%	2.8%
平成18年度	570	22.1%	55.3%	11.8%	3.2%	0.2%	4.6%	3.0%
平成21年度	653	20.8%	59.1%	9.3%	3.5%	0.2%	5.5%	1.5%
平成23年度	577	23.1%	50.3%	12.8%	2.3%	0.5%	8.3%	2.8%
平成25年度	793	19.7%	55.2%	11.5%	2.4%	0.4%	6.9%	3.9%
平成27年度	899	21.9%	54.1%	9.8%	2.2%	0.6%	8.7%	2.8%
平成29年度	782	22.3%	55.2%	8.1%	2.9%	1.0%	9.5%	1.0%
令和元年度	744	22.4%	54.6%	9.1%	2.4%	0.4%	9.1%	1.9%
令和3年度	826	25.2%	55.3%	9.0%	2.7%	0.4%	6.8%	0.7%
令和6年度	732	25.3%	48.2%	11.2%	3.3%	1.0%	10.2%	0.8%

各分野の男女平等まとめ

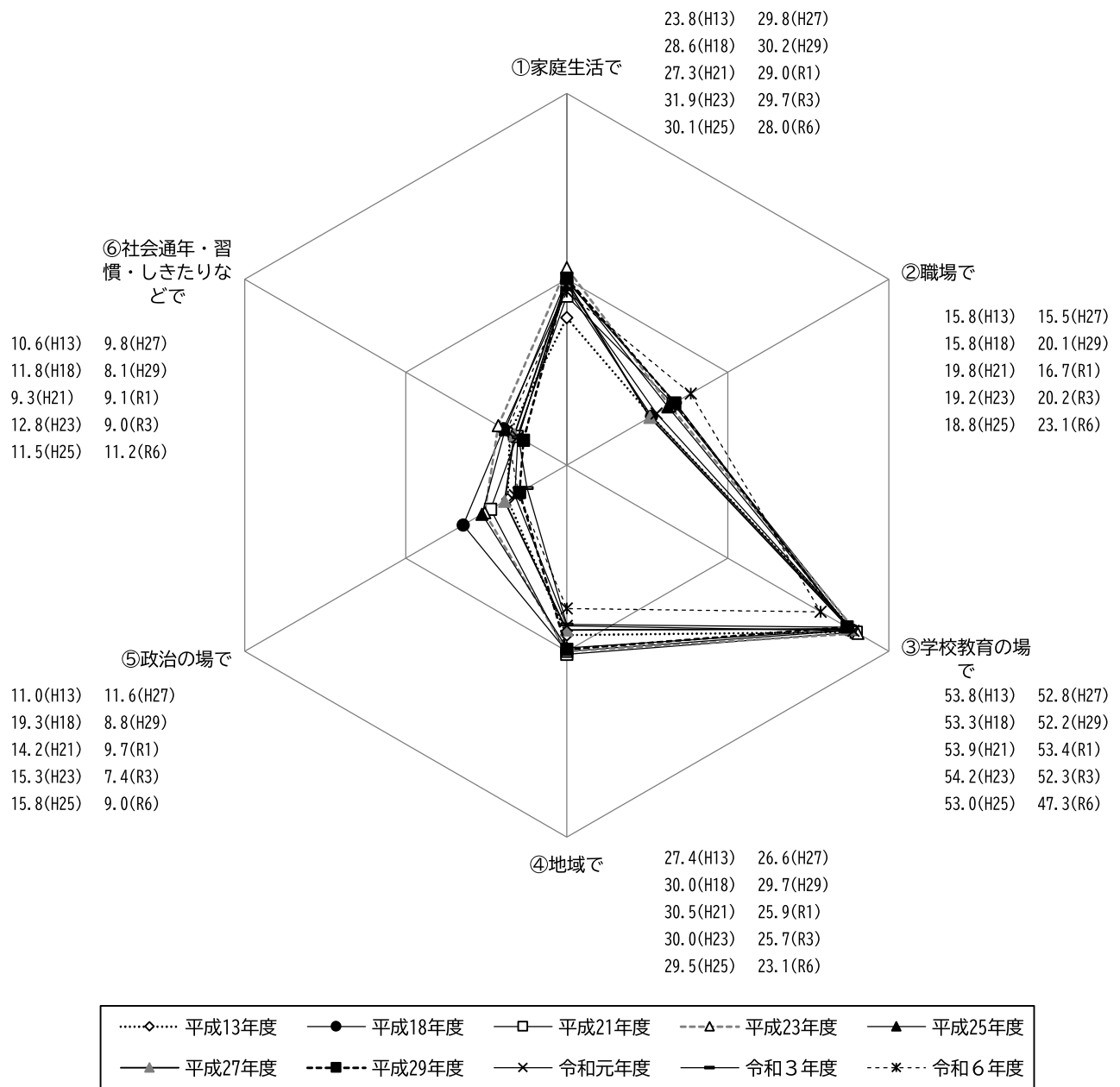
各分野の特徴を下表にまとめました。多くの分野で男性より女性が『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）と感じる傾向があり、男女間の意識の違いがみられました。

経年比較では、割合の大きな変化はないものの、『男性優遇』が減少傾向もしくは前回より低くなっています。

		① 家庭 生活 で	② 職 場 で	③ 学 校 教 育 の 場 で	④ N P O 主 防 な 災 （ 地 域 で 自 治 会 ・ な ど ）	⑤ 政 治 の 場 で	⑥ し 社 会 た 通 り な ど の 慣 ・ 習 慣 ・
全体の傾向		・『男性優遇』が5割	・『男性優遇』が5割強	・なし（「平等」が5割弱）	・なし（『男性優遇』が5割弱）	・『男性優遇』が8割弱	・『男性優遇』が7割強
『男性優遇』と感じる傾向が強い属性※	性別	・女性	・男性 ・女性	・なし	・女性	・男性 ・女性	・男性 ・女性
	性年齢別	・男性50歳～59歳 ・男性70歳以上 ・女性20代以上	・男性50歳～59歳 ・男性70歳以上 ・女性30代以上	・なし	・男性70歳以上 ・女性40歳～49歳 ・女性60代以上	・男性全ての年代 ・女性全ての年代	・男性全ての年代 ・女性全ての年代
	子どもの有無別	・男性で子ども有 ・女性で子ども有	・男性で子ども有 ・女性で子ども有 ・女性で子ども無	・女性で子ども有 ・女性で子ども無	・女性で子ども有 ・女性で子ども無	・男性で子ども有 ・男性で子ども無 ・女性で子ども有 ・女性で子ども無	・男性で子ども有 ・男性で子ども無 ・女性で子ども有 ・女性で子ども無
	職業の有無別	・男性で職業無 ・女性で職業有 ・女性で職業無	・男性で職業有 ・男性で職業無 ・女性で職業有 ・女性で職業無	・男性で職業無 ・女性で職業有 ・女性で職業無	・男性で職業無 ・女性で職業有 ・女性で職業無	・男性で職業有 ・男性で職業無 ・女性で職業有 ・女性で職業無	・男性で職業有 ・男性で職業無 ・女性で職業有 ・女性で職業無
	子育て世代の職業の有無別	・女性で職業有 ・女性で職業無	・男性で職業有 ・女性で職業有 ・女性で職業無	・女性で職業無	・女性で職業無	・男性で職業有 ・女性で職業有 ・女性で職業無	・男性で職業有 ・女性で職業有 ・女性で職業無
経年比較		・『男性優遇』減少傾向	・『男性優遇』減少傾向	・「平等」前回調査から減少	・『男性優遇』前回調査から減少	・『男性優遇』前回調査から減少	・『男性優遇』前回調査から減少

※集計5割以上、あるいは、属性別得点で全体平均以上に男性優遇の得点が大きい場合

【各分野の平等について】



4. 男性が優遇される原因

問3-2 (問3の①から⑥のうち1つでも「1. 男性が非常に優遇されている」または「2. どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた方に伺います。)

男性が優遇されている原因は何だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

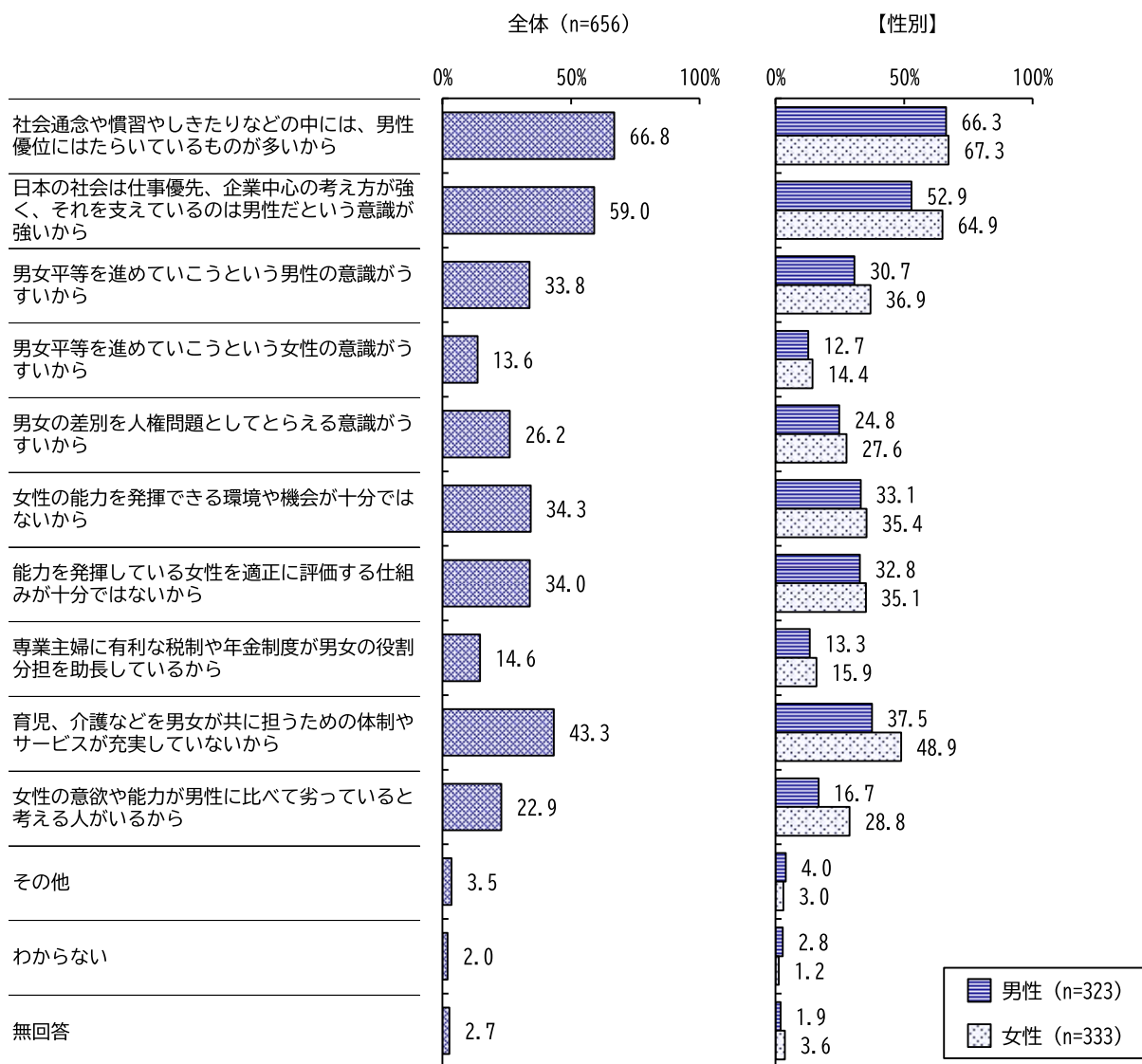
「社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたらいっているものが多いから」が66.8%。

男性が優遇される原因についてたずねたところ、「社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたらいっているものが多いから」が66.8%と最も高く、次に「日本の社会は仕事優先、企業中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だという意識が強いから」が59.0%、「育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していないから」が43.3%となっています。

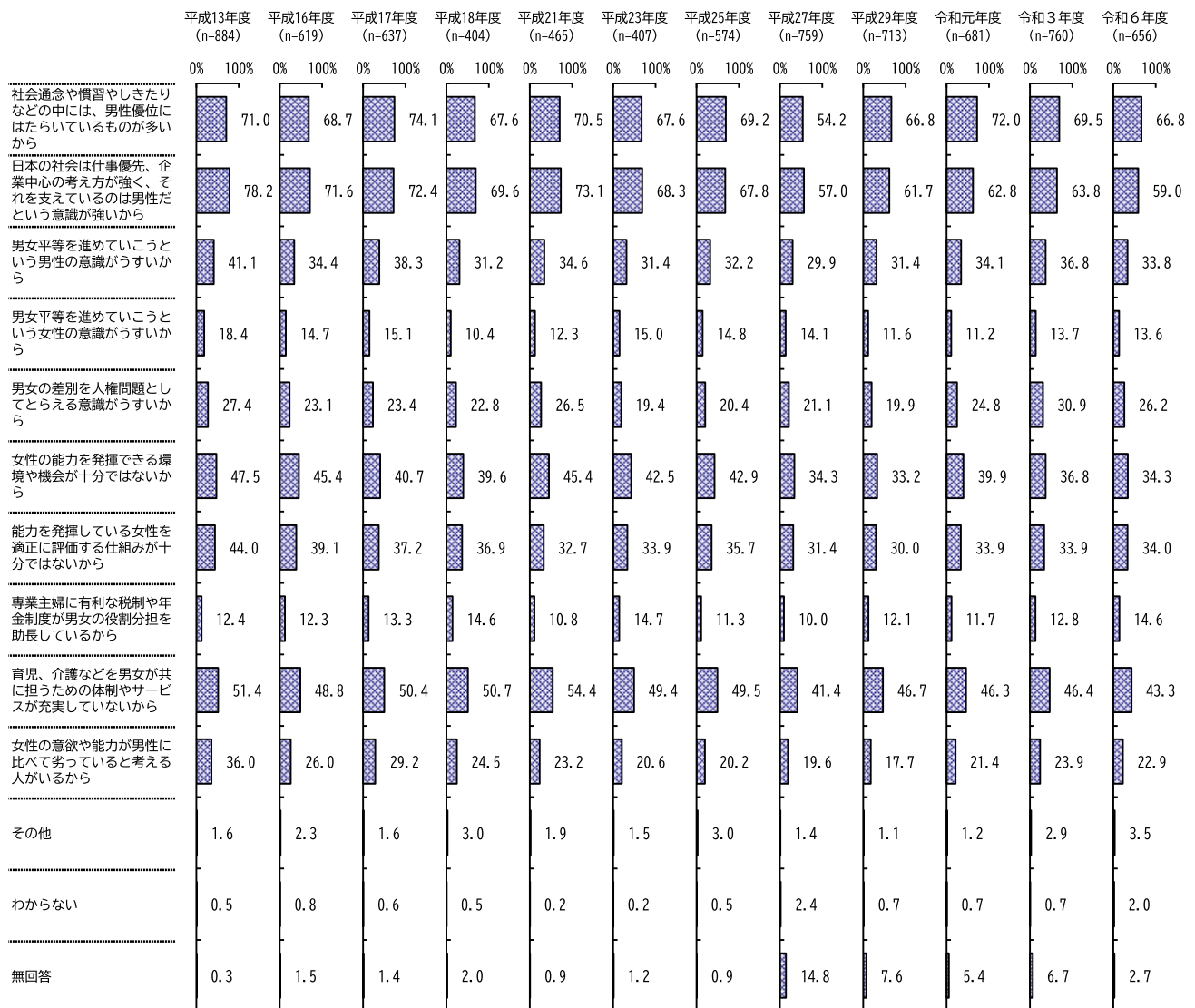
性別でみると、すべての項目で女性が男性より高い割合となり、「女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいるから」で12.1ポイント、「日本の社会は仕事優先、企業中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だという意識が強いから」で12.0ポイント、「育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していないから」で11.4ポイントの差がみられます。

経年比較でみると、いずれの項目も大きな変化はありません。

【全体・性別】



【経年比較】



5. 男女の役割を固定的に考えることに関する意識

問4 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(1つに○)

男女の役割を固定的に考えることは『反対』が69.8%。

男女の役割を固定的に考えることについてたずねたところ、『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)が69.8%、『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)が17.6%となっています。

性別でみると、『反対』が男性は60.7%、女性は79.0%となっています。

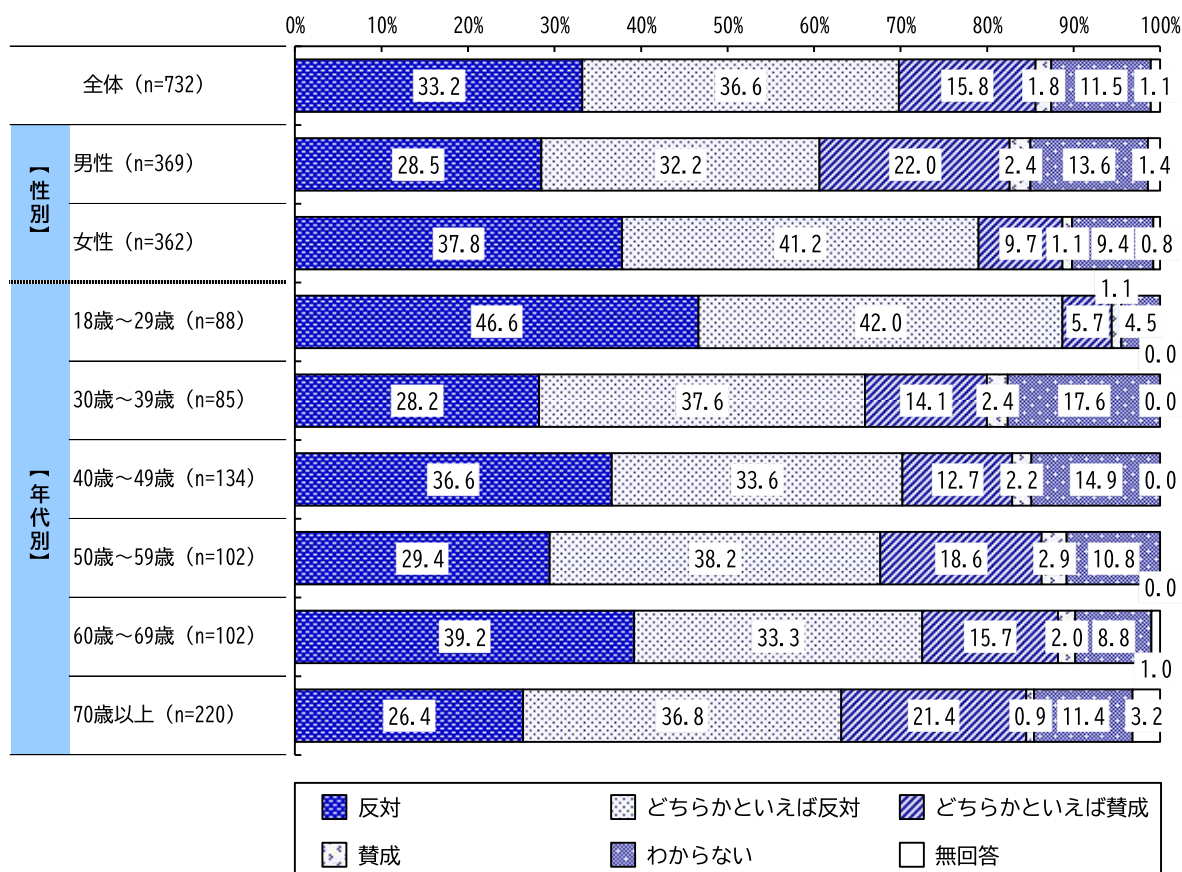
年代別でみると、『反対』が18歳～29歳で88.6%となっています。

性・年代別でみると、男性、女性ともに18歳～29歳で『反対』の割合が他の年代より高くなっています。

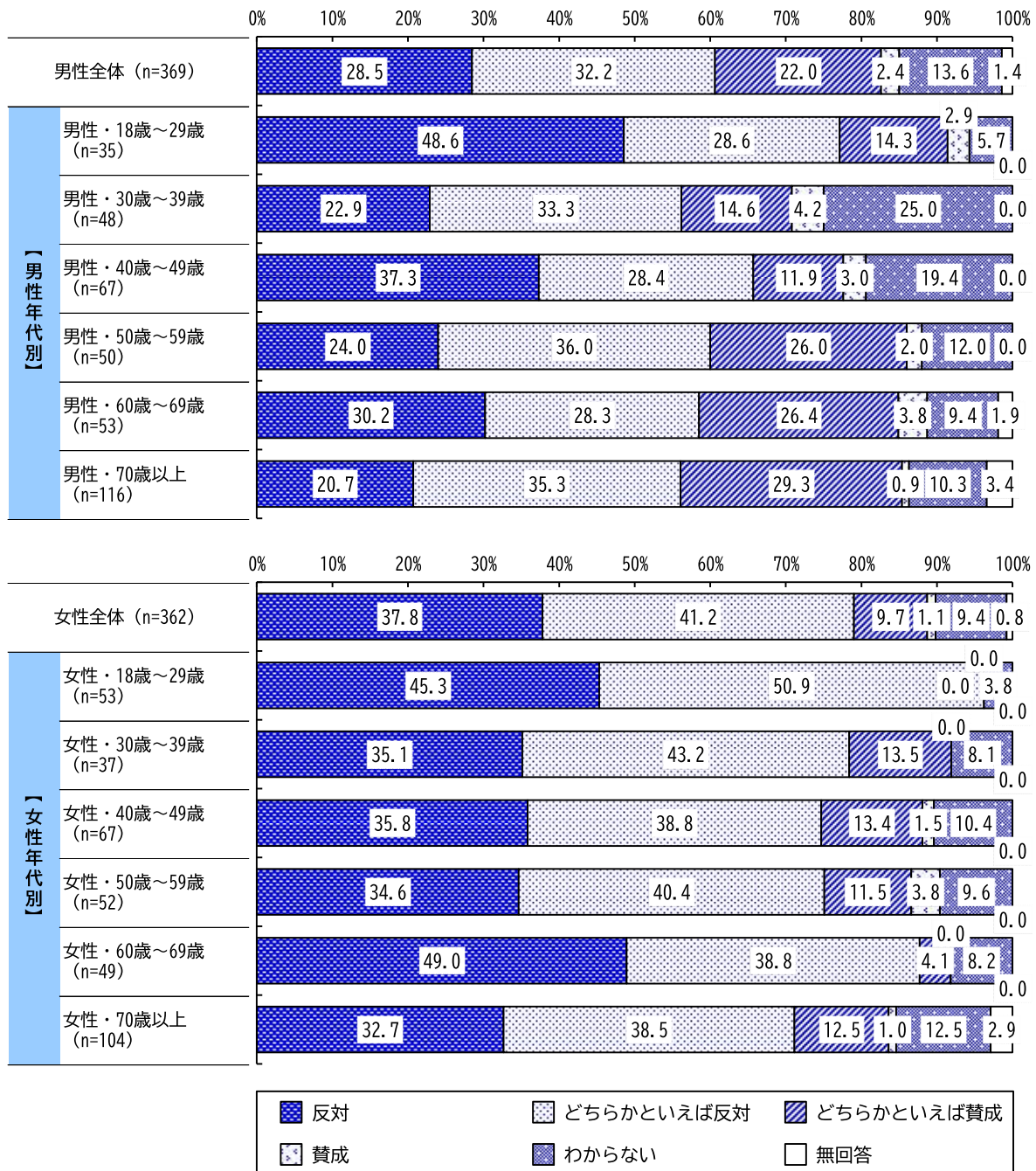
属性別得点をみると、すべての属性で反対側に位置しています。性・年代別で男性と女性の差は、60歳～69歳で0.82ポイントと比較的大きな差がみられました。

経年比較でみると、『反対』の割合が前回調査より低くなったものの、高い割合を維持しています。

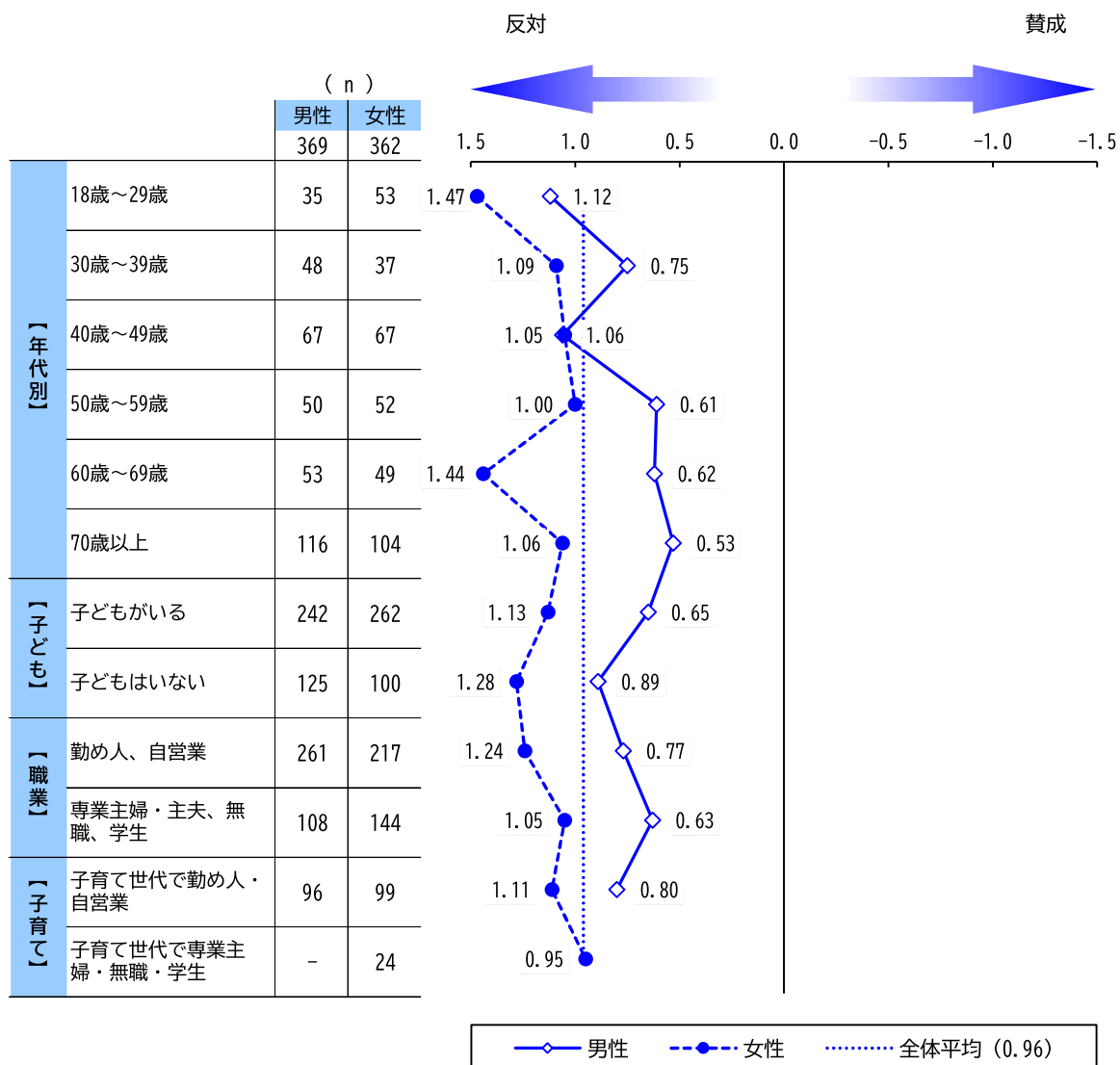
【全体・性別・年代別】



【性・年代別】



【属性別得点】



【得点算出方法】

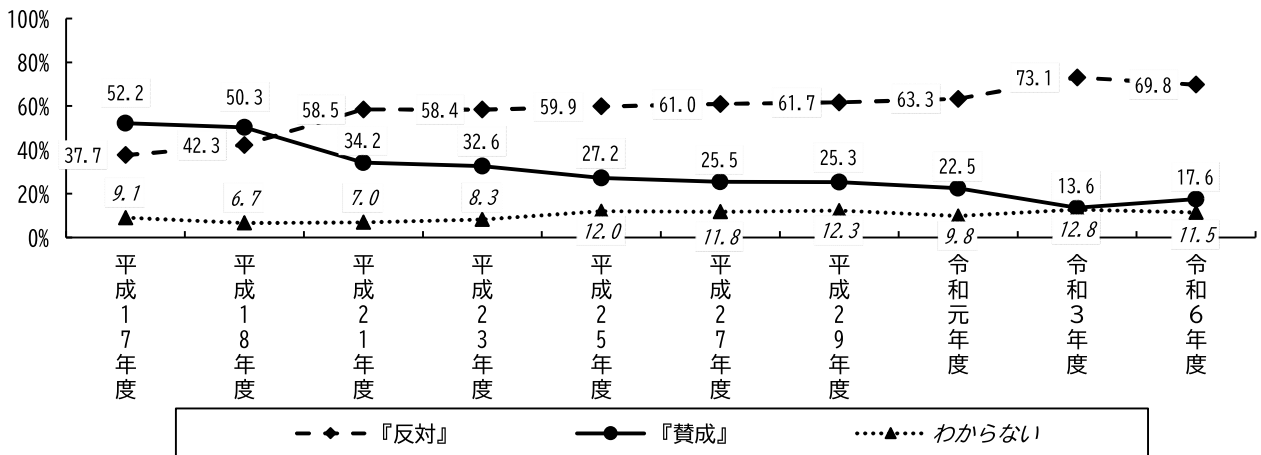
各選択肢を

- ・ 反対 2点
- ・ どちらかといえば反対 1点
- ・ どちらかといえば賛成 0点
- ・ 賛成 -1点
- ・ わからない -2点

とし、平均点を算出しました。

※「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）

	調査数	反対	どちらかといえば 反対	どちらかといえば 賛成	賛成	わからない	無回答
平成17年度	836	13.5%	24.2%	43.2%	9.0%	9.1%	1.1%
平成18年度	570	18.1%	24.2%	41.4%	8.9%	6.7%	0.7%
平成21年度	653	21.3%	37.2%	27.3%	6.9%	7.0%	0.3%
平成23年度	577	21.7%	36.7%	27.2%	5.4%	8.3%	0.7%
平成25年度	793	22.1%	37.8%	23.0%	4.2%	12.0%	1.0%
平成27年度	899	23.1%	37.9%	21.5%	4.0%	11.8%	1.7%
平成29年度	782	24.0%	37.7%	22.1%	3.2%	12.3%	0.6%
令和元年度	744	27.3%	36.0%	20.2%	2.3%	9.8%	4.4%
令和3年度	826	31.1%	42.0%	12.6%	1.0%	12.8%	0.5%
令和6年度	732	33.2%	36.6%	15.8%	1.8%	11.5%	1.1%

6. 仕事、家事、育児、介護への男女のかかわり方について

問4-2 仕事、家事、育児、介護について男女がどのようにかかわるべきだと思いますか。
(1つに○)

仕事、家事、育児、介護への男女のかかわり方は
「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」が84.4%。

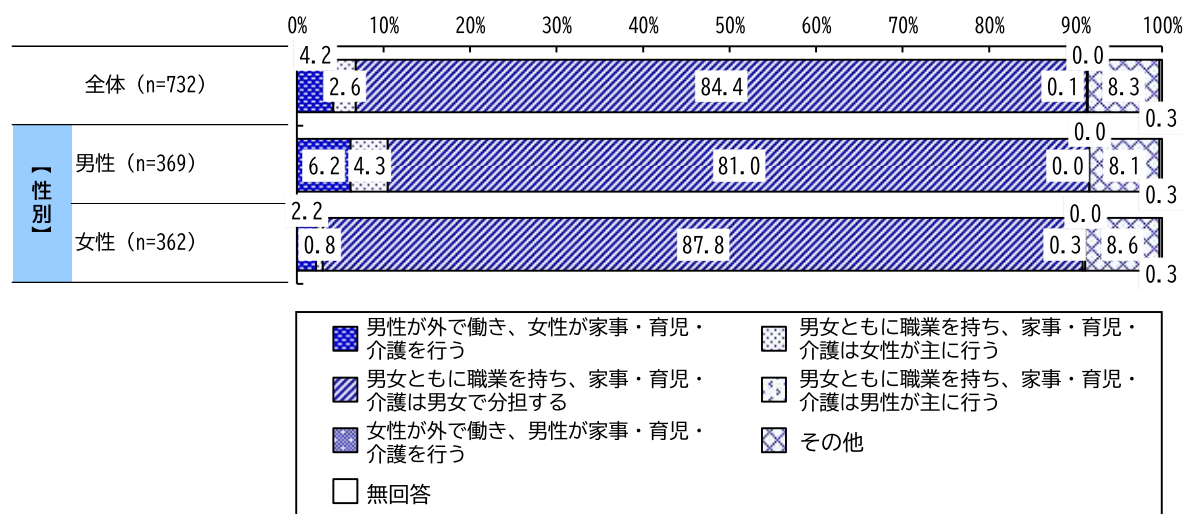
仕事、家事、育児、介護について男女がどのようにかかわるべきかについてたずねたところ、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」が84.4%と最も高くなり、他の項目は全て1割より低くなっています。

性別でみると、男性、女性ともに「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」が8割以上となっています。

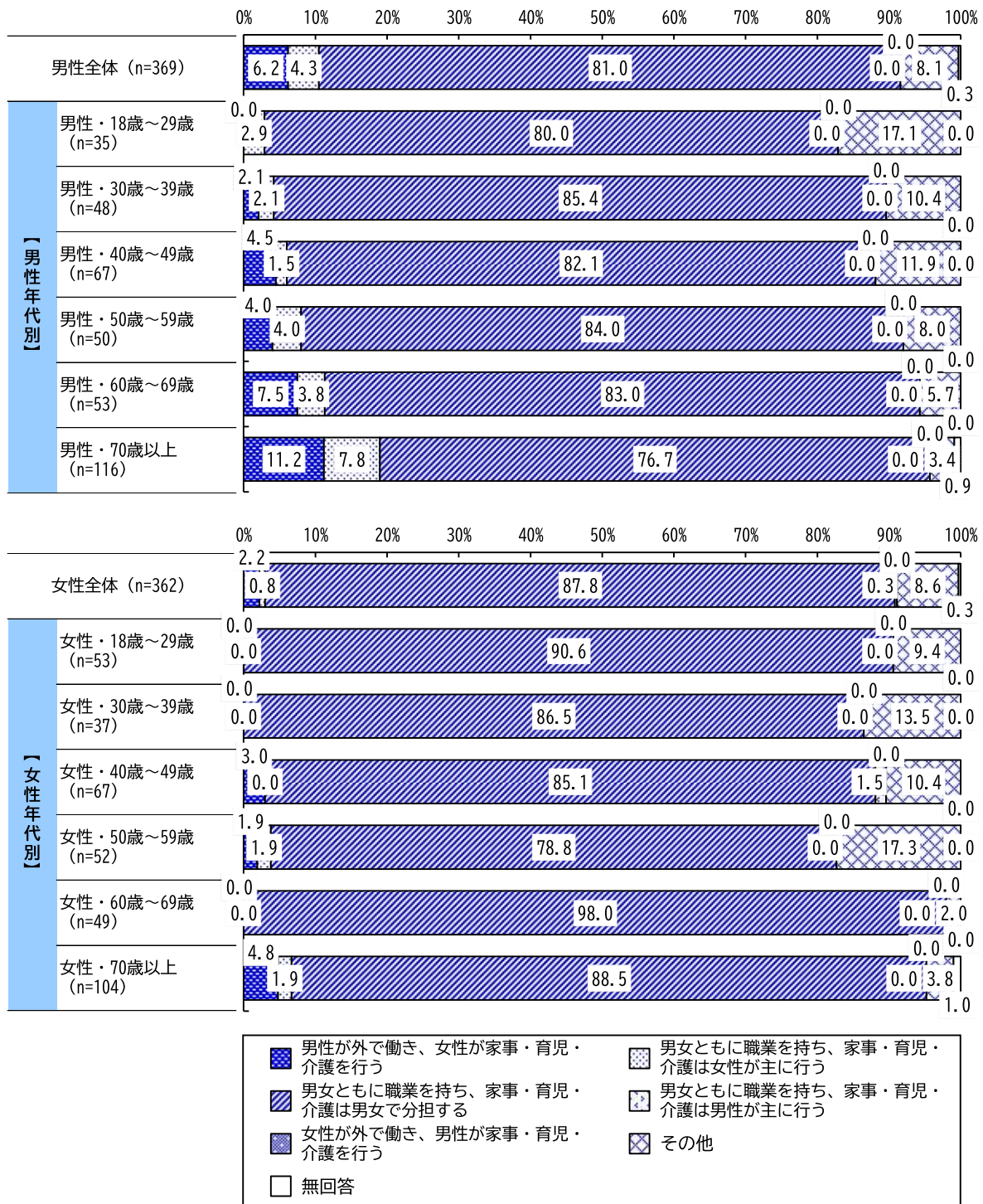
性・年代別でみると、男性の70歳以上や女性の50歳～59歳の割合が他の年代よりやや低いものの、すべての性・年代別で「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」が高くなっています。

経年比較でみると、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」が高い割合を維持しています。

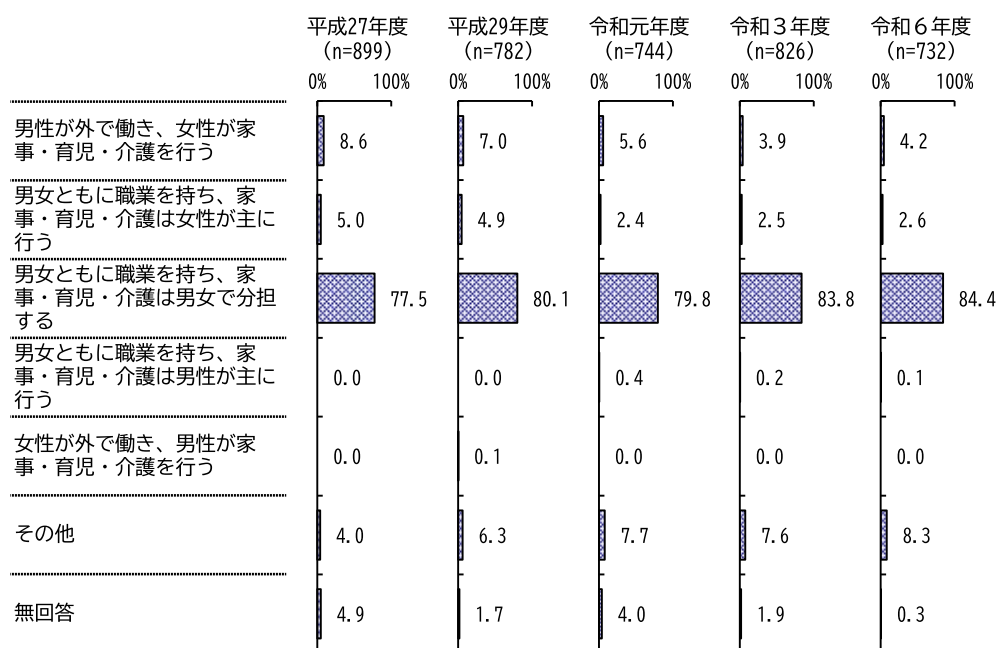
【全体・性別】



【性・年代別】



【経年比較】



2 男女共同参画に関する教育・学習について

1. 人権の尊重、男女平等を推進する教育

問5 あなたは、人権の尊重、男女平等を推進する教育を主にどこで行うべきだと考えますか。
(1つに○)

人権の尊重、男女平等を推進する教育を行う場は
“学校教育の場”が57.0%、“家庭教育の場”が15.8%。

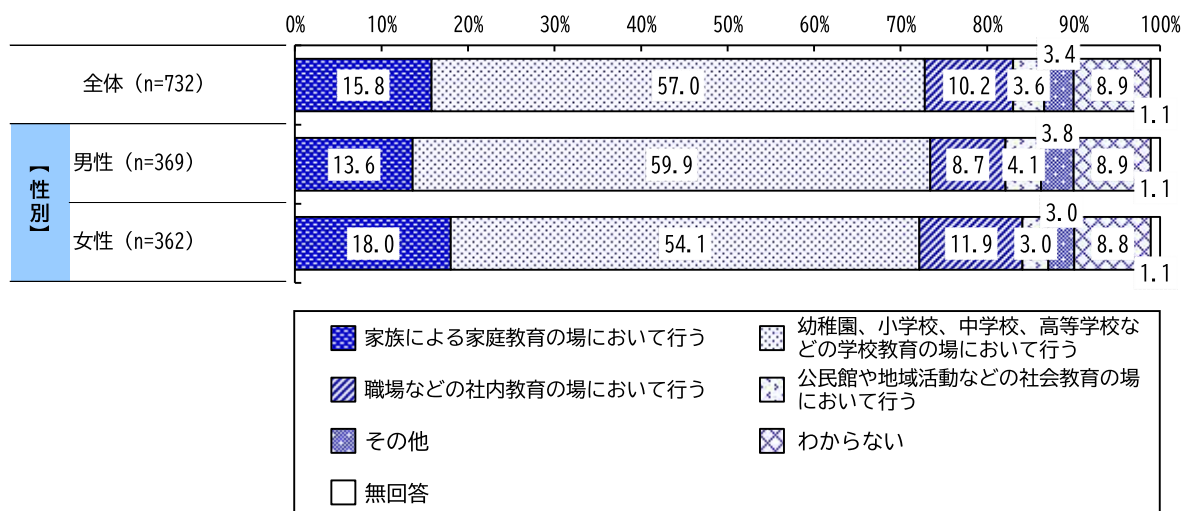
人権の尊重、男女平等を推進する教育を主にどこで行うべきだと考えるところ、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う」が57.0%と最も高く、次に「家族による家庭教育の場において行う」が15.8%、「職場などの社内教育の場において行う」が10.2%となっています。

性別でみると、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う」が男性は59.9%、女性は54.1%となっています。

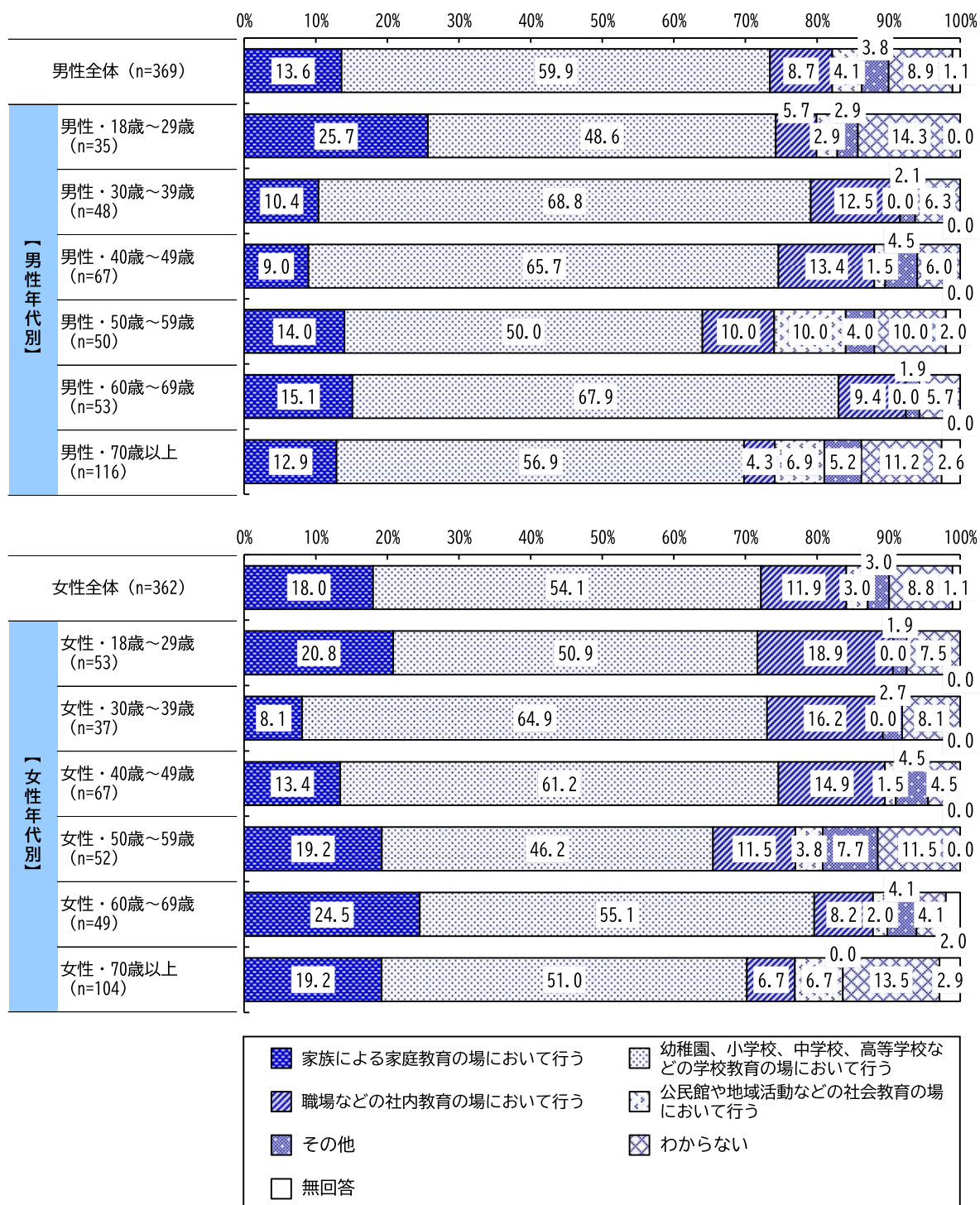
性・年代別でみると、男性は18歳～29歳が「家族による家庭教育の場において行う」の割合が他の年代より高くなっています。

経年比較でみると、「家族による家庭教育の場において行う」が減少傾向、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う」が高い割合を維持しています。

【全体・性別】



【性・年代別】



【経年比較】

